第40回全日本総合選手権大会

大崎電気がアベック優勝!!

第40回全日本総合選手権大会は、12月22日から25日までの４日間、東京・駒沢屋内球技場、駒沢体育館で、男子16チーム、女子14チームが参加して熱戦を展開した。

10月の国体で女子チームの監督・佐藤章治監督が倒れ、11月にはオーナーの渡辺和美氏（日本協会副会長）を亡くすという不幸つづきの大崎電気が、今大会、男女共チーム一丸となっての素晴らしい闘いぶりを見せ、見事男女アベック優勝を飾った。

男子

1回戦

湧永製薬31〔13－14, 18－9〕23福岡大

〔戦評〕立ち上がり両チームとも初戦のためかミスが目立ったが、湧永製薬は相手ミスに乗じて速攻で得点する。その後もポスト、ロング、サイドなど多彩な攻撃で加点する。これに対して、福岡大は走りがなく、相手ディフェンスを崩し切れず、苦しい姿勢からのシュートが目立った。

後半に入り福岡大の固さもほぐれ、それぞれのチームの持ち味を生かして得点する。後半互角に戦っているだけに、福岡大にとっては前半の失点が痛かった。

得	〔湧永〕		〔福岡大〕	得
0	徐	GK	北林	0
0	藤井	GK	篠原	0
3	酒巻	FP	小山田	1
8	河原	FP	喜友名	3
6	玉村	FP	久保野	0
4	堀田	FP	大坪	4
0	中川	FP	中山	8
0	長沢	FP	末岡	4
2	荷川取	FP	清水	2
5	奥田	FP	島	0
3	楯原	FP	田中	1
0	鎌塚	FP	野本	0
31	(4)	PT		23

（審・浜田 小笠原）

三陽商会27〔13－7, 14－14〕21埼玉教員ク

〔戦評〕パワーの三陽商会、テクニックの埼玉教員のゲームは、地力に勝る三陽が勝利を収めた。埼玉教員の長身選手がいないにもかかわらず、田中のミドル、速攻、ポストなどで前半終了間際までリードした。

しかし、後半に入ると三陽に細かいプレーを読まれ出し、インターセプトから速攻を許してしまった。埼玉教員の健闘が光った。

得	〔三陽〕		〔埼玉〕	得
0	宇田川	GK	大崎	0
0	吉田	GK	牧田	0
0	関	FP	田中	12
3	清家	FP	岩本	0
0	田口	FP	綿引	5
5	大塚	FP	池田	1
4	砂川	FP	山中	1
2	山口	FP	野平	0
6	浜田	FP	伊藤	1
7	実方	FP	吉田	0
0	河村	FP	稲村	1
0	吉原	FP	谷井	0
27	(4)	PT	(3)	21

（審・川島 森）

筑波大24〔12－9, 12－8〕17トヨタ車体

〔戦評〕前半、筑波大は相手チームのミスをうまく速攻に結びつけ、

得	〔筑波大〕		〔車体〕	得
0	沢井	GK	宮田	0
0	松永	GK	村林	0
4	久保田	FP	吉続	1
2	加藤	FP	長野	6
4	宜保	FP	蓑田	1
1	田中	FP	君島	4
7	疋田	FP	藤長	2
1	山内	FP	平野	0
1	吉田	FP	久保山	0
3	鎌田	FP	萩原	0
1	篠原	FP	井上	0
0	藤井	FP	河合	3
24	(2)	PT	(0)	17

（審・浅井 山本）

得点を重ねた。しかしトヨタ車体は、ノーマークシュートのミスで筑波大に追いつけず、4点をリードして筑波大が前半を制した。
　後半に入り、勢いに乗った筑波大は、学生らしいスピードをフルに使い、終始リードのまま7点差で終わった。

日新製鋼40〔17―15　23―12〕**27氷見ク**

〔戦評〕高いディフェンスの日新の壁をどのように切り崩して攻めるか、氷見のチームワークに期待をもったが、パスカットから速攻というパターンで前半15分で大差がついてしまった。しかしゲームを捨てず、その後ようやく氷見らしいパスワークが見られ加点したが、スピード、パワー、体格とも勝る日新に自由自在にゲームを運ばれてしまった。
　後半に入ると、日新のディフェンスが雑になり、そこを氷見がよく攻めた。後半25分まで互角のゲーム展開となる。

得	〔日新〕		〔氷見〕	得
0	森田	GK	水谷	0
0	谷	GK	桜打	0
7	森	FP	金原	8
8	武田	FP	瀬戸	0
2	西山	FP	中原	2
3	高木	FP	西山	0
0	甲斐	FP	堀川	4
5	日野	FP	山口	0
2	堀田	FP	森	5
5	藤本	FP	山崎	0
3	野中	FP	中山	6
5	木村	FP	指崎	2
40	(3)	PT	(2)	27

〔審・島崎　井上〕

大崎電気28〔13―8　15―7〕**15長野教員**

〔戦評〕大崎は首藤、長野は矢島と共にエースを負傷で欠く。特に長野に戦力面での劣勢が心配されたが、岩下を中心によくまとまっている長野は、立ち上がりから好プレーを見せ、8分まで3―2とリード。しかし、地方のある大崎は同点に追いついてから徐々に力を発揮し、前半15―7とリード。
　後半に入っても絶えずリードを保ち終了した。大崎の雑なシュートというよりも、長野のGKを中心とする必死のディフェンスがゲームをひきしめた。

得	〔大崎〕		〔長野〕	得
0	渡辺	GK	中島	0
0		GK	北島	0
4	松岡	FP	竹内	1
0	大和田	FP	塩川	2
3	武田	FP	行田	0
0	首藤	FP	中条	0
2	中田	FP	若林	0
1	越迫	FP	鳥谷越	8
3	菅田	FP	岩下	3
2	山内	FP	伴野	0
8	相馬	FP	小笠原	1
5	宮下	FP	中村	0
28	(1)	PT	(1)	15

〔審・中本　福田〕

早稲田大34〔17―11　17―16〕**27本田技研熊本**

〔戦評〕早大が3点先取し、点差を広げリードしていく。本田技研・山口の浮かしシュートから反撃、徐々に点差を詰める。
　後半すぐ本田技研のスカイプレーが見事に決まり、同点とする。両チームともミドルシュートが得点となるが、パスミス、シュートミスなどがあり、一進一退のゲーム展開であったが、早大が勝利を得た。

得	〔早大〕		〔熊本〕	得
0	須藤	GK	中尾	0
0	高橋	GK	宮本	0
2	大橋	FP	矢野	0
5	大中	FP	荒田	5
9	大村	FP	三代	3
8	菰原	FP	松村	1
2	鳥平	FP	田中	3
0	原	FP	山口	3
0	河野	FP	川崎	9
0	清田	FP	長野一	0
0	小林	FP	佐迫	0
8	甲斐	FP	長野透	3
34	(2)	PT	(3)	27

〔審・岡本　清水〕

大同特殊鋼37〔24―7　13―8〕**15浦添ク**

〔戦評〕前半立ち上がり、浦添クは攻撃のミスから大同に速攻とポストプレーなどで得点を重ねられ、10分までに4―1と引き離された。中盤に入ると、浦添クは新垣、東江らの連続ポイントや高良のサイドシュートなどで追い上げるが、大同も高村、中本らの得点で前半13―8とリードして折り返した。
　後半に入ると、10分までは浦添クも速い動きの攻撃で大同に食い下がったが、20分過ぎからは大同のGKの秋吉の好守もあり、逆速攻からの得点で37―15の大差で勝負がついた。

得	〔大同〕		〔浦添〕	得
0	上村	GK	高良	0
0	秋吉	GK		
6	田中	FP	黒島	3
0	内藤	FP	比嘉	0
5	高村	FP	新垣	4
1	朝生	FP	宮里	1
3	明石	FP	内原	0
1	植木	FP	新里	0
5	横浜	FP	東江	2
6	佐藤	FP	上原	1
4	中本	FP	高良	3
6	名取	FP	宮城	1
37	(2)	PT	(1)	15

〔審・後藤　島田〕

本田技研鈴鹿49〔25―7　24―6〕**13自衛隊呉**

〔戦評〕立ち上がり、自衛隊呉のキレのいい動きとオールコートプレスのもどりに本田にミスが出て3―1と自衛隊呉がリード。しかし、10分過ぎ自衛隊・池田の退場を境に本田は好ディフェンスから速攻などで10連取し、15―4と試合を決めた。自衛隊呉GK須堯の好キープもあったが、本田にシュート、パスのイージーミスが目立った。
　後半も10分までは自衛隊呉も池田のミドルなどで健闘したが、さすがに本田の速攻のスピードにもどりきれず、得点差は開いた。イージーなパスミスなどがなくなればもっといいゲームができたはずで、惜しまれる。

得	〔鈴鹿〕		〔呉〕	得
0	大畑	GK	一二	0
0	橋本	GK	須堯	0
4	真砂	FP	山先	0
4	藤井	FP	寿賀	4
1	立木	FP	塩見	0
3	尾上	FP	岩川	0
5	内藤	FP	児玉	2
10	粟屋	FP	山根	1
2	田口	FP	池田	3
6	山本	FP	亀田	0
6	山村	FP	村岡	0
8	平子	FP	利光	3
49	(2)	PT	(1)	13

〔審・浅井　山本〕

2回戦

湧永製薬 24 〔14 10 ― 3 8〕 11 三陽商会

〔戦評〕立ち上がり、両チームとも全く互角の試合でスタート。特に三陽商会のディフェンス、GK宇田川の好守で、王者・湧永の連続得点を許さずに一進一退を繰り返す。しかし20分過ぎ、玉村のPT、GK井藤の速攻へとつなぐ素晴らしいパスで3連続得点で湧永はやっと主導権をとり、前半を終了。

後半に入り、疲れの見えた三陽ディフェンスは、前半おさえていたポストへのパスを通されるようになり、前半は許さなかった連続得点につながり、湧永の楽な展開となりそのまま終了。

得	〔湧永〕		〔三陽〕	得
0	徐	GK	宇田川	0
0	井藤		吉田	0
2	酒巻	FP	関	0
1	河原		清家	4
11	玉村		田口	0
3	堀田		大塚	1
0	中川		砂川	1
1	長沢		山口	2
2	荷川取		浜田	0
2	奥田		実方	3
2	楢原		河川	0
0	鎌塚		吉原	0
24	(4)	PT	(2)	11

日新製鋼 34 〔17 17 ― 13 10〕 23 筑波大

〔戦評〕立ち上がりから両チームとも気迫のこもったスピーディな攻防を展開、レフェリーの歯切れのいい笛もこれを助け、好ゲームとなった。パワーに勝る日新は3分過ぎからポスト、サイド、速攻、ロングと多彩な攻めで5点を連取し、主導権を握り、以降も好ペースでゲームを展開、17―10で前半を終る。

後半も両チームのスピーディなガッツあふれるプレーは見応えがあった。筑波にミスが多かったこと、ポストで得点ができた分、日新が勝ったゲームであった。

得	〔日新〕		〔筑波〕	得
0	森田	GK	沢井	0
0	谷		永松	0
4	武田	FP	久保田	1
5	西山		加藤	2
8	高木		宜保	3
2	甲斐	〔審・浜田、小笠原〕	田中	4
2	大村		疋田	8
5	日野		広瀬	0
5	堀田		山内	0
2	藤本		吉田	4
0	池田		鎌田	1
1	野中		篠原	0
34	(1)	PT	(6)	23

大崎電気 35 〔21 14 ― 11 10〕 21 早稲田大

〔戦評〕ナショナルプレーヤー4人を含む日本リーグの雄・大崎電気に学生界きってのシャープなシューター・甲斐を軸とした学生チャンピオン・早大が胸を借りての対戦となった。速攻、ポスト、サイドロングシュートと多彩に攻める大崎に対し、早大は甲斐の7点を中心に何とか食い下がろうと努力するが、好機に矢内のナイスキーピングに阻まれ、14―10で前半を折り返す。

後半、大崎は宮下、相馬らのロングシュートと速攻で加点し、大崎ペースで試合を進め、35―21で終了する。

得	〔大崎〕		〔早大〕	得
0	渡辺	GK	須藤	0
0	矢内		高橋	0
4	松岡	FP	大橋	2
3	大和田		大中	0
1	武田		大村	3
3	斉藤	〔審・後藤、島田〕	菰原	3
3	中田		鳥平	0
2	越迫		原	0
3	菅田		河野	0
0	山内		清田	0
8	相馬		小林	0
8	宮下		甲斐	13
35	(2)	PT	(3)	21

本田技研鈴鹿 32 〔16 16 ― 11 10〕 21 大同特殊鋼

〔戦評〕ゲーム開始から両チームともきびきびした展開で互角の好ゲームとなった。しかし、地力に勝る本田は前半中ばからポストプレーなどで着実に得点を重ねてリードを奪い、6点差で前半を折り返した。

後半も本田のリズムは変わらず大黒柱・立木を投入するや一気にリードし、勝利を得た。大同も高村らのロングで必死に反撃したが力及ばず、準決勝進出は果たせなかった。

得	〔鈴鹿〕		〔大同〕	得
0	大畑	GK	上村	0
0	橋本		秋吉	0
3	真砂	FP	田中	1
4	藤井		高村	3
3	立木		朝生	2
3	尾上	〔審・川島、森〕	明石	5
6	内藤		植木	0
3	粟屋		横浜	3
3	田口		佐藤	0
3	山本		中本	3
0	山村		名取	1
7	平子		海江田	3
32	(3)	PT	(2)	21

準決勝

湧永製薬 26 〔16 10 ― 5 11〕 16 日新製薬

〔戦評〕立ち上がり互いに知り尽くした両チームは、立ち上がりから激しい攻防を繰り返すが、確実性に勝る湧永が先手を取った中盤、武田を中心にする日新のパスワークが冴え、逆転し、日新リードで前半終了。

後半、日新の攻撃リズムが単調になり、湧永が早い得点リードを奪い返した。反撃を試る日新は、速攻の失敗も目立ち、湧永が余裕をもって点差を広げた。

得	〔湧永〕		〔日新〕	得
0	徐	GK	森田	0
0	井藤		谷	0
0	酒巻	FP	森	0
2	河原		武田	1
9	玉村		西山	2
1	堀田	〔審・島崎、井上〕	高木	5
1	中川		甲斐	1
6	長沢		木村	0
5	荷川取		日野	0
2	奥田		堀田	2
0	楢原		藤本	4
0	鎌塚		野中	1
26	(1)	PT	(1)	16

大崎電気 21 〔9 12 ― 10 9〕 19 本田技研鈴鹿

〔戦評〕迫力満点の両チームは、共にダイナミックなプレーの連続で素晴らしいゲームであった。

スタートから先手を取りつづけ

た本田に対し、前半中ば、リードを奪い返した大崎は、後半に入っても矢内の好キーピング、宮下の力強いロングシュート、相馬の切れの良いシュートがさく裂し、楽勝かと思われたが、後半24分、やや疲れの見え出した大崎の崩れに乗じ、2点差に追い上げ、がぜん盛り上がった。1点差になるべく粟屋のシュートをはじき返した矢内の美技に救われ、ふり切った。素晴らしい好ゲームであった。

得	〔鈴鹿〕		〔大崎〕	得
0	大畑	GK	渡辺	0
0	橋本	GK	矢内	0
0	真砂	FP	松岡	5
0	藤井	FP	大和田	0
5	立木	FP	武田	0
0	尾上	FP	首藤	5
5	内藤	FP	中田	1
2	粟屋	FP	山本	2
3	田口	FP	越迫	0
0	山本	FP	菅田	0
4	山村	FP	相馬	4
0	平子	FP	宮下	4
19	(3)	PT	(0)	21

〔審・岡本・清水〕

男子決勝、大崎が気迫あふれるプレーで終始先手をとった

決勝

大崎電気21〔12－9、9－9〕18湧永製薬

〔戦評〕予想通り決勝戦へ勝ち上がってきた両チームの対戦は、ゲーム開始早々からスピードあふれる激戦となった。

大崎リード、湧永追撃で互角の前半の様相の中で、最初の山場は前半残り2分で大崎2名退場の場面。このハンディを逆に大崎は2点連取し、前半を3点差で折り返した。

後半に入っても一進一退の息づまるような接戦の展開は変わらず決勝戦にふさわしいスリリングは好試合となった。しかし、大崎が一歩リード、湧永の必死の追い上げをかわし、18年ぶりの優勝を遂げた。

得	〔湧永〕		〔大崎〕	得
0	徐	GK	渡辺	0
0	井藤	GK	矢内	0
0	酒巻	FP	松岡	2
3	河原	FP	大和田	1
3	玉村	FP	武田	0
1	堀田	FP	首藤	2
3	中川	FP	中田	5
0	長沢	FP	山本	5
1	荷川取	FP	越迫	0
5	奥田	FP	菅田	0
2	楢原	FP	相馬	0
0	鎌塚	FP	宮下	6
18	(1)	PT	(3)	21

〔審・上久保・北井〕

女子

1回戦

筑波大29〔14－10、15－8〕18JUKI

〔戦評〕筑波大は林を軸にロングシュート、パス回しからのポストプレーをたくみに使い、JUKIのディフェンス陣をかわし、点を積み上げていった。JUKIは筑波大の高いディフェンス陣に対して、ボールを回してノーマークをつくろうとするが、ミスが目立ち前半の筑波大に7点の差をつけられた。

後半に入っても筑波大は速攻も組み入れ、着実に得点をあげた。

得	〔JUKI〕		〔筑波〕	得
0	大角	GK	吉村	0
		GK	山下	0
0	石塚	FP	鋤崎	6
0	石井	FP	相川	0
5	佐藤	FP	山崎	0
1	上田	FP	和田	5
2	嶋田	FP	磯山	2
1	内山	FP	大塚	0
3	伊原	FP	白鳥	0
3	古谷	FP	中山	3
3	大林	FP	林	10
		FP	柳内	3
18	(1)	PT	(5)	29

〔審・中本・福田〕

シャトレーゼ35〔17－9、18－5〕14京都教員

〔戦評〕試合開始からシャトレーゼのペースで展開、京都教員の攻撃もシャトレーゼのGK丸山の好守に阻まれ、7分30秒、池上のゲットが初得点となった。その間、速攻、ミドルシュートなどが京都ゴールにゲットされ、前半17－9

得	〔京都〕		〔シャト〕	得
0	山本	GK	丸山	0
0	森	GK	工藤	0
1	矢野	FP	嶋崎	4
2	池上	FP	海道	4
6	藤田	FP	松沢	1
1	渡辺	FP	黒沼	1
2	谷坂	FP	小林	0
1	中尾	FP	小野寺	2
1	小橋	FP	江原	0
		FP	生方	6
		FP	山岸	13
		FP	宇宿	4
14	(7)	PT	(10)	35

〔審・浜田・小笠原〕

の点差で終了。

後半開始後、京都は池田を中心に攻撃を展開したが、シャトレーゼの力量が上回り、18―5でシャトレーゼが一方的ゲームを終了した。

大和銀行30〔13―11 17―8〕19全福岡

〔戦評〕日本リーグ勢とクラブチーム、どこから見ても大和銀行が楽勝するゲーム。にもかかわらず、今季の不振を象徴するかのように大和の切れのなさが目立った。

ゲームは、大学のベテランOGで固める福岡が、今村の好リードでマイペースで闘った。大和は、前半中ばからエース丸田などのロングシュートが入り出し、リード、結局11点の差をつけ順当に勝利した。

大和の攻撃の狭さ、速攻の少なさが気にかかる。福岡のキャリアを充力生かしたハンドボールに好感が持てたゲームであった。

得	〔福岡〕		〔大和〕	得
0	上野	GK	増見	0
0	沢辺	GK	坂口	0
2	今村	FP	丸田	7
8	松田	FP	鈴木	5
1	薮田	FP	赤瀬	0
1	妹川	FP	上村	3
0	田中	FP	小池	5
2	尾木	FP	藤本	2
0	田口	FP	渡辺	3
0	橋本	FP	巽川	5
5	長澤	FP	松田	0
0	横瀬	FP	平川	0
		（審・川島 森）		
19	(4)	PT	(1)	30

ジャスコ26〔16―8 10―12〕20東女体大

〔戦評〕5分間無得点の立ち上がりからジャスコが3―0と抜け出すが、東女体大もサイド、ポストで3―3とする。共にスピードのある互角の内容ながら、ジャスコがGK小深田の好守で18分には9―4とリード。しかしこの後、ジャスコの展開を読んだ東女体大が速攻などで加点し、12―10と逆転して前半を終る。

後半、東女体大のミスを速攻につなげてジャスコが12分に18―15とひっくり返す。東女体大も追うが差はそのまま、20分、ジャスコ2人退場の好機にPTミス、5人―2人の速攻をインターセプトされるなどで失点して、完全にジャスコのペースとなった。

雑な失点が少ない、内容のある好ゲームだった。

得	〔東女体〕		〔ジャ〕	得
0	蒔田	GK	小深田	0
0	村山	GK	吉田	0
4	藤井	FP	服部	2
3	楠	FP	佐々木	2
0	川西	FP	石田	1
4	佐藤	FP	近藤	5
1	伝法	FP	常石	0
0	鈴木	FP	川井	8
0	竹野	FP	武田	0
4	田鹿	FP	池田	4
2	井口	FP	東出	0
1	日比野	FP	王	4
		（審・上久保 北井）		
20	(5)	PT	(3)	26

立石電機山鹿36〔14―4 22―7〕11広島ク

〔戦評〕明らかに実力差のあるチームの対戦である。

広島クは中田のミドルを軸に攻撃するが、立石のスピード、パワー、そしてロング、ポスト、速攻と多彩に繰り出される攻撃になすすべもなかった。

結局、立石が終始リード、36―11で試合を終えた。

得	〔広島〕		〔立石〕	得
0	永岡	GK	岡本	0
0	山本	GK	川島	0
1	本西	FP	山口	0
2	水木	FP	山内	1
1	山田	FP	江口	2
0	猫本	FP	田中	6
5	中田	FP	横田	0
1	藤岡	FP	野嶋	4
0	高松	FP	武津	0
1	長谷部	FP	中山	5
0	立河	FP	比嘉	10
0	吉中	FP	石村	8
		（審・島崎 井上）		
11	(0)	PT	(3)	36

日立栃木20〔10―10 10―9〕19日体大

〔戦評〕両チームともに前半は慎重にゲームを進め、5分過ぎから日立、日体大ともに得点を入れ、互角の試合内容。日立のロング、日体大のミドル、ポストと持ち味を生かした。

後半は、日立のディフェンス前の速いボール回しからシュート、日体大の速攻と両チームの動きの速い攻撃にして白熱したゲーム展開、惜しむらくは日体大の得点期の速攻ミスが最後まで響いた。

得	〔日体〕		〔日立〕	得
1	松永	GK	岡本	0
0	小松崎	GK	梅津	0
0	審	FP	管原	0
2	市来	FP	柳田	4
3	大間	FP	山岸	3
4	外舘	FP	尾苗	2
1	新田	FP	中村	2
1	小島	FP	岡田	3
1	中田	FP	石毛	0
2	小林	FP	新井	2
0	児玉	FP	吉鶴	4
4	福城寺	FP	飯塚	0
		（審・岡本 清水）		
19	(7)	PT	(2)	20

2回戦

大崎電気39〔18―16 21―12〕28筑波大

〔戦評〕筑波大が先行し、大崎電気が速攻、ポストで反撃する。5分過ぎから両チームともに速攻、ミドル、ポスト、カットイン、ロングなどで得点し合い、白熱したゲーム展開が期待されたが、地力に勝る大崎が10分あたりより金、尹を軸にした攻撃で加点する。

これに対して筑波大は、中山、林のロングシュートで応戦するが相手の速いディフェンスの動きを崩し切れなかった。後半に入り、筑波大もよく健闘したが、前半の失点が大き過ぎた。

得	〔筑波〕		〔大崎〕	得
0	吉村	GK	佐々木	0
0	山下	GK	宗片	0
1	鋤崎	FP	森田	0
5	相川	FP	松尾	7
0	山崎	FP	須永	1
6	和田	FP	前川	5
1	磯崎	FP	梅原	6
0	大塚	FP	江口	4
0	白鳥	FP	野田	1
3	中山	FP	鈴木	1
5	林	FP	金	8
2	柳内	FP	尹	6
		（審・島崎 井上）		
28	(2)	PT	(4)	39

シャトレーゼ25〔2―0 2―2 9―14 12―7〕23大和銀行

女子決勝、双方闘志あふれるプレーで大熱戦を展開

〔戦評〕両者ともにセット攻撃の力があり、立ち上がりから気迫の入った好プレーの応酬。中盤過ぎシャトレーゼがリードして前半終了。後半、大和のGKがPTを阻止し、丸田のロングシュートを中心にぐんぐんと追い上げた大和が28分30秒同点、延長に入る。
　延長前半、共に譲らず、後半に入って、ポストプレーとサイド攻撃でシャトレーゼがふり切った。

〔大和〕	得		得	〔シャト〕
増見	0	GK	0	丸山
坂口	0	GK	0	工藤
丸田	11	FP	3	嶋崎
鈴木	1	FP	7	海道
赤瀬	1	FP	5	松沢
上村	2	FP	3	黒沼
小池	4	FP	0	小林
藤本	0	FP	2	小野寺
渡辺	0	FP	0	江原
猆川	4	FP	1	生方
松田	0	FP	4	山岸
平川	0	FP	0	宇宿
(1)	23	PT	25	(3)

（審・岡本、清水）

立石電気山鹿 17（8－10、9－6）16 ジャスコ

〔戦評〕立石電機が前半1点を先取し、調子の波に乗るかと思ったが、9分過ぎ、ジャスコが1点、2点と得点し、15分過ぎジャスコが近藤のミドルシュートで逆転し前半を終える。
　後半、両チームとも気合の入った積極的なプレーとディフェンスが良く、前へ出て阻止する動きがあり、選手個人〳〵の持っている能力を存分に発揮し、1点を争うゲームであったが、立石電機が勝利を得た。

〔ジャ〕	得		得	〔立石〕
小深田	0	GK	0	岡本
吉田	0	GK	0	川島
服部	0	FP	0	山口
佐々木	1	FP	1	山内
石田	2	FP	1	江口
近藤	3	FP	1	田中
常石	0	FP	3	野嶋
川井	2	FP	1	橋本
武田	1	FP	0	武津
池田	4	FP	1	中山
東出	0	FP	5	比嘉
王	3	FP	4	石村
(2)	16	PT	17	(2)

（審・中本、福田）

日立栃木 19（9－8、10－8）16 日本ビクター

〔戦評〕ベストメンバーを組めない両チームは、ともするとプレーが単調に走りがちで、リズムに乗れない攻撃が続いた。前半、絶えずビクターが一歩リードするも、終了間際に日立が逆転した。
　後半に入ると、山岸を中心に積極的に展開を図る日立が徐々に差を広げた。中盤、日立の何回かの退場のチャンスをビクターは拙攻を繰り返し、逆転できずに終了した。

〔日ビ〕	得		得	〔日立〕
小口	0	GK	0	岡本
高橋	0	GK	0	梅津
武藤	4	FP	0	菅原
長田	0	FP	0	柳田
枝川	1	FP	5	山岸
平松	0	FP	1	中村
太田	3	FP	0	岡田
工藤	0	FP	2	石毛
永岡	3	FP	7	新井
根本	4	FP	3	吉鶴
中村	1	FP	0	飯塚
山之内	0	FP	1	堤
(2)	16	PT	19	(1)

（審・上久保、北井）

準決勝

大崎電気 30（16－10、14－12）22 シャトレーゼ

〔戦評〕連続優勝を狙う大崎電気は、韓国からの〝助っ人〟2人とキャプテン松尾のコンビで得点を重ねる。対するシャトレーゼは、海道、生方のロングで対抗し、前半15分まで互角の戦いであったが、その後大崎はGK佐々木の好守に助けられ、点差を広げた。
　後半に入り、シャトレーゼは小林の連続サイドシュートで大崎を追い上げるが及ばず、30－22で大崎の決勝進出が決まった。

〔シャト〕	得		得	〔大崎〕
工藤	0	GK	0	佐々木
千葉	0	GK	0	宗片
嶋崎	3	FP	0	森田
海道	5	FP	6	松尾
松沢	5	FP	1	須永
黒沼	3	FP	3	前川
小林	0	FP	1	梅原
小野寺	1	FP	0	江口
江原	0	FP	0	野田
生方	3	FP	0	鈴木
山岸	1	FP	9	金
小俣	1	FP	10	尹
(2)	22	PT	30	(1)

（審・川島、森）

立石電機山鹿 15（9－6、6－8）14 日立栃木

〔戦評〕両チームとも開始直後固くなり、ミスが続き、20分で立石5－4日立のロースコアーの試合展開となったが、立石・井監督は作戦タイムをとり、指示を与えると、立石はフォーメーション、サインプレーで3点連取。
　後半に入り、7分間で日立は連続PTで1点差まで迫ったが、2回の相手の退場中に得点をあげることができず、終了直前の速攻をからめた激しい追い上げも実らず1点差で逃げ切られる。
　立石は2日続けての1点差勝利。3年ぶり7回目の決勝進出。

〔日立〕	得		得	〔立石〕
岡本	0	GK	0	岡本
梅津	0	GK	0	川島
菅原	0	FP	1	山内
柳田	0	FP	0	江口
山岸	2	FP	0	田中
尾苗	1	FP	0	横田
中村	0	FP	2	野嶋
岡田	0	FP	4	橋本
石毛	2	FP	0	武津
新井	3	FP	3	中山
吉鶴	0	FP	5	比嘉
飯塚	6	FP	0	石村
(4)	14	PT	15	(3)

（審・浜田、小笠原）

決勝

大崎電気 21（11－10、10－10）20 立石電機山鹿

〔戦評〕大崎は、金、尹の二枚看板が多彩なプレーで得点をあげていった。一方立石はキャプテン江口の粘りのあるプレーで得点をあげ、前半は互角の戦いであった。
　後半に入り、コンビネーションプレーを生かしたプレーが両チームから見られ、得点は開かず一進一退の攻撃戦であった。終盤に入り、攻撃パターンの豊かな大崎がリードした。必死に追いすがる立石だが、善戦及ばなかった。

〔立石〕	得		得	〔大崎〕
岡本	0	GK	0	佐々木
川島	0	GK	0	宗片
山口	0	FP	0	森田
山内	0	FP	4	松尾
江口	2	FP	0	須永
横田	0	FP	0	前川
野嶋	8	FP	1	梅原
橋本	1	FP	2	江口
武津	0	FP	0	野田
中山	1	FP	0	鈴木
比嘉	6	FP	8	金
石村	2	FP	6	尹
(7)	20	PT	21	(3)

（審・後藤、島田）

全日本総合を取材して

読売新聞運動部　谷戸忠司

40回目を迎えた昭和63年度の全日本総合選手権大会は、24年ぶり史上2度目という大崎電気の男女アベック優勝で幕を閉じた。私事で恐縮だが、大会前の予想記事で、私は大崎電気がアベック優勝に向けて一丸になっているという話しを書いた。10月に女子の佐藤章治監督、11月にはハンドボール部生みの親である渡辺和美オーナーを相次いで失い、チームが『弔い合戦』に強い決意を見せていたからだった。それが、図らずも的中した形になり、私にとっても忘れられない大会となった。

もっとも、大崎電気のアベックVの可能性を、どの程度に見ていたかといえば、かなり低いのではないかと思っていた。日本リーグ前期で圧倒的な強さを見せた女子はともかく、男子は湧永製薬の牙城を崩すのは難しい気がした。だが、決勝で優勝チームにふさわしいプレーを見せたのは、むしろ男子の方だった。

勝利への執念、気迫――月並みな言葉だが大崎男子はこの点で湧永セブンを大きく上回った。主将の山本は、大会初日に持病のすい臓が悪化、前日の準決勝からの出場だったが、大崎の1点目をはじめ、前半15分で5得点。これで他の選手が燃えてきたのはいうまでもない。

前半9分、PTで4―3と初めてリードを奪った後、つねに1―3点の少数点差ながら最後まで湧永にリードを譲らなかったところにも、気力の充実ぶりがうかがえた。最大のヤマ場は前半残り2分。2点リードの場面で大和田、首藤が反則退場した。しかし、この大ピンチに、大崎は中田が相手パスミスからの速攻を決め、さらに宮下も正面からのロングと連続得点。ここで湧永に同点。もしくは逆転を許していたら、後半の展開はかなり違ったものになっていたはずで、その意味でも勝敗の大きな分岐点となった。

さらに忘れてはならないのがGK矢内の神がかり的ともいえる好キーピングだった。荷川取、楢原という湧永の誇る大型ダブルポストのシュートを、ほとんどシャットアウト。MVPがあったら文句なしに選ばれたほどの活躍だった。

試合の行方が決定的になった終盤、コートの周囲で大崎電気の全盛時代のOBたちが、男子にとっての17年ぶりの圧勝の瞬間をいまや遅しと待構えていた姿が印象的だった。

一方、女子は予想外の接戦になった。連日30点台の得点で勝ち上がってきた大崎に対し、立石電機山鹿は2回戦、準決勝かいずれも1点差の辛勝で得点も10点台。『大崎の楽勝』という声が大勢を占めたのも無理はなかった。だが大崎は動きが硬く、ミスも多くて前半は10―10。後半も残り6分から猛追を受けてわずか1点差の勝利、終了40秒前、立石のオーバーステップがなければ、延長戦になりかねない展開だった。とはいえ、『勝って当然』のプレッシャーに苦しみながら、それをはねのけてV2を達成したのは見事。立石も、この日の苦戦が大きな自信になったはずである。

このように、今大会は珍しく感動的なフィナーレとなったが、大会を通じた印象はといえば、低調という言葉を使わざるを得ない。決勝戦を除けば、白熱した試合が少なかったし、その決勝も含めてミスの目立つ試合が多かった。パスミス、キャッチミスなどイージーミスは、試合の興味をそぐことにもなってくる。

とくにソウル五輪で惨敗を喫した男子は、この大会で再起に向けての意欲を期待したが、緩慢なプレーが多かったのには失望させられた。

観衆の不入りが、低調なプレーの遠因になっていることは否定できまい。もともと、多くの観客動員を見込めない競技であるのに加え、会場も交通の便がよくない駒沢というハンデは確かにある。しかし、大会当日に隣接のグラウンドで高校チームのオープン大会が開かれていたのに、全日本総合を見に会場へ足を運んだチームは少なかった。日本のトップレベルのゲームを見る機会は、そうあるとは思えないのだが…。積極的な試合観戦の呼びかけをしていたら、違ったものになったような気がする。

会場にしても、東京体育館の新装を慢然と待つだけでなく。前々回のように後半2日間だけでも都心の施設で行うことはできないものか。

日本協会はじめ、主管団体らの大会運営に対する前向きの姿勢が望まれる。

第31回全日本学生選手権大会

1988.11.1〜6
福岡市民体育館

男子 早稲田大 / 女子 東京女子体育大 が優勝

男子

予選リーグ

▼A組

チーム	得点	前後半		得点	チーム
福岡大	29	14 15	14 11	25	大経大
国士館大	33	17 16	11 7	18	順天堂大
福岡大	28	14 14	10 9	19	国士館大
順天堂大	30	18 12	14 10	24	大経大
福岡大	32	13 19	16 11	27	順天堂大
国士館大	38	16 22	9 9	18	大経大

〔順位〕①福岡大②国士館大③順天堂大④大阪経済大

▼B組

チーム	得点	前後半		得点	チーム
早稲田大	33	15 18	9 11	20	天理大
法政大	25	14 11	10 12	22	同志社大
早稲田大	30	17 13	14 14	28	法政大
天理大	23	12 11	11 10	21	同志社大
早稲田大	28	11 17	12 3	15	同志社大
法政大	29	14 15	14 9	23	天理大

〔順位〕①早稲田大②法政大③天理大④同志社大

▼C組

チーム	得点	前後半		得点	チーム
大体大	27	12 15	7 6	13	久工大
筑波大	24	13 11	9 12	21	函館大
大体大	26	13 13	9 7	16	函館大
筑波大	36	18 18	11 7	18	久工大
筑波大	28	13 15	9 8	17	大体大
函館大	29	18 11	9 14	23	久工大

〔順位〕①筑波大②大阪体育大③函館大④久留米工業大

▼D組

チーム	得点	前後半		得点	チーム
日大	32	18 14	9 11	20	京産大
中部大	26	12 14	15 8	23	日体大
日大	25	12 13	8 16	24	日体大
中部大	28	15 13	17 11	28	京産大
中部大	27	15 12	12 11	23	日大
日体大	30	16 14	13 12	25	京産大

〔順位〕①中部大②日本大③日本体育大④京都産業大

準決勝リーグ

▼I組

早稲田大 31 〔15 16 ― 15 12〕 27 国士館大

〔戦評〕前半は早大が速攻を中心に得点を加えていった。国士大も速いパス回しから中里のサイドシュートなどで応戦した。しかし、大事なところで早大の甲斐がロングシュートを決め、点差はなかなか縮まらなかった。

後半に入ると、国士大は甲斐にマンツーマン・ディフェンスをつけ反撃を試みた。45度林、源内を中心にセットオフェンスで点差を縮めていったが、大事なところで単発シュートを放ち、逆速攻を受けて同点まで追いつけず、そのまま早大が逃げ切った。

得	〔早大〕		〔国士大〕	得
0	高橋	GK	神田	0
0	須藤	GK	金子	0
8	甲斐	FP	猪瀬	4
4	清田	FP	長洞	0
0	小林	FP	小野	4
1	大中	FP	林	7
9	大橋	FP	八尾	0
6	大村	FP	源内	6
1	菰原	FP	中里	6
2	島平	FP	小野	0
0	原	FP	寺尾	0
		FP	竹林	0
31	(4)	PT	(1)	27

〔審・森山・高橋〕

福岡大 38 〔19 19 ― 13 12〕 25 法政大

〔戦評〕序盤は両チームともシュートミスが目立ったが、10分過ぎ頃から福岡大は中山のロング、大堀、喜友名のサイドで攻撃すれば法大はパス回し、カットインの攻撃で応戦した。

後半に入って、法大はパス回しからずらし、カットインで攻撃するが、福岡大はディフェンスからの速攻で次々と加点していき、そのまま逃げ切った。

得	〔福岡大〕		〔法政大〕	得
0	林	GK	浅沢	0
0	篠原	GK	中山	0
7	喜友名	FP	大窪	5
0	久保野	FP	神保	0
1	笠	FP	岸	4
5	大坪	FP	田村	5
7	中山	FP	増田	2
7	末岡	FP	中地	2
3	清水	FP	田部	3
1	島	FP	安藤	4
4	田中	FP	荻原	0
3	野本	FP	佐藤	0
38	(3)	PT	(2)	25

〔審・岡本・清水〕

国士館大 36 〔23 13 ― 9 10〕 19 法政大

〔戦評〕立ち上がりから両チームともロングシュートを警戒してか1・5ディフェンスを敷いたため国士大はパス回しから源内らのア

得	〔国士大〕		〔法政大〕	得
0	神田	GK	浅沢	0
0	金子	GK	中山	0
6	猪瀬	FP	大窪	6
3	長洞	FP	神保	0
1	佐々木	FP	岸	2
2	矢ケ崎	FP	田村	1
4	小野	FP	増田	6
3	林	FP	中地	0
7	源内	FP	田部	4
5	中里	FP	安藤	0
1	又吉	FP	荻原	0
4	小野	FP	佐藤	0
36	(1)	PT	(3)	19

〔審・浅井・山本〕

シストで中里らのポストシュートが決まり、対する法大もパスからのずらしでのサイドシュートで応戦して前半を3点差とした。
　後半に入ると、国士大の一方的な攻めで、源内のロングも決まり出し、全員が平均して得点し、圧勝した。

早稲田大28（15 13／10 11）21福岡大

〔戦評〕福岡大は序盤から早大のエースにマンツをつけて守ったが、それが裏目に出て前・後半ともディフェンスが広がり、大中、大村のカットイン、ポストシュートを許し、末岡、中山のシュートで対抗したが、1・2・3ディフェンスを敷く早大の前に後半攻め切れなかった。
　早大は後半になると甲斐のカットインシュート、菰原の速攻で着実に点を稼ぎ、残り2分に退場者3人を出し、3人で守ることになったが、それまでの点差が8点まであったため楽に守り切った。

	〔福岡大〕	得
GK	林	0
GK	篠原	0
FP	喜友名	6
FP	久保野	0
FP	浦塘	0
FP	笠	2
FP	大坪	1
FP	中山	2
FP	末岡	6
FP	清水	1
FP	田中	3
FP	野本	0
	PT (3)	21

	〔早大〕	得
GK	高橋	0
GK	須藤	0
FP	甲斐	9
FP	清田	1
FP	小林	0
FP	大中	6
FP	大橋	5
FP	大村	3
FP	菰原	3
FP	鳥平	1
FP	原	0
	PT (3)	28

〔審・岡本　清水〕

〔順位〕①早稲田大②福岡大③国士館大④法政大

▼Ⅱ組

筑波大20（11 9／7 9）16日大

〔戦評〕序盤は筑波大の3点リードで始まったが、8分過ぎからは一進一退の攻防となり、日大は渡辺、山田のシュートで追いつけば、筑波大は田中、吉田の強シュートとGK片山の好キープで互角の展開。後半に入っても、15分過ぎまでは取っては取り返すといった攻防が続いたが、日大の荒いディフェンスからのPTで流れが筑波大に傾き、吉田のシュートなどで点差を広げ、GK片山と厚いディフェンスで日大の追撃をふり切った。

	〔日大〕	得
GK	堀江	0
GK	増見	0
FP	堀	0
FP	春木	0
FP	田子	0
FP	大薮	0
FP	雨宮	3
FP	小河原	5
FP	渡辺	3
FP	山田	1
FP	丹羽	0
FP	西岡	4
	PT (2)	16

	〔筑波大〕	得
GK	沢井	0
GK	片山	0
FP	久保田	2
FP	新井	1
FP	津兼	0
FP	村杉	0
FP	加藤	0
FP	宜保	0
FP	田中	3
FP	疋田	4
FP	吉田	8
FP	鎌田	2
	PT (5)	20

〔審・浅井　山本〕

中部大23（10 13／12 10）22大体大

〔戦評〕前半は最初から積極的な攻撃をする中部大に対して、大体大は1・5ディフェンスを敷き守ったが、ずらしからのパスのポスト、サイドシュートで加点され、13分に大体大が退場者を出し、ずらしを注意すれば長嶺の豪快なロングシュートを打たれ、福村のロングで対抗するが、2人目の退場者を出し苦しくなった。
　後半に入っても中部大の勢いは止まらず、長嶺のロングシュートや長嶺にディフェンスを引きつけてのポスト落としで加点していった。大体大は後半20分から5点差を盛り返し1点差まで詰め寄ったが、中部大GK水谷の再三の美守の前にもう1点が追いつくことができなかった。

	〔大体大〕	得
GK	緒方	0
GK	家永	0
FP	梅基	2
FP	村田	0
FP	福村	5
FP	西岡	4
FP	田中	3
FP	林	0
FP	寺島	3
FP	角谷	0
FP	河合	4
FP	荻原	1
	PT (3)	22

	〔中部大〕	得
GK	水谷	0
GK	石原	0
FP	塩坂	4
FP	堀田	2
FP	坂	4
FP	同前	1
FP	植村	0
FP	興儀	6
FP	内田	0
FP	田浅	0
FP	長嶺	4
FP	長田	2
	PT (1)	23

〔審・岡本　清水〕

日大26（15 11／9 11）20大体大

〔戦評〕日大は高い位置でディフェンスを敷き、大体大のエース福村のロングシュートを防いだが、大体大はボールをサイドへ回し勝負した。逆に大体大は一線ディフェンスを敷いたが、日大の雨宮、西岡らのカットインプレーを止められずリードを奪われた。しかし前半残り5分ようやく福村のロングシュートが2本連続で決まり同点とした。
　後半に入ると、大体大は頼みのサイドシュートが日大GK堀江の好守に阻止されだし点をあげられなくなった。ディフェンスは1・5の型に変え守ったが、日大両サイド山田、渡辺の回り込みからのシュートを止められず点差が広がっていった。最後まで大体大は日大のカットインプレーに対して詰めが遅く、日大の攻撃が止められなかった。

	〔大体大〕	得
GK	家永	0
GK	大屋	0
FP	梅基	1
FP	村田	1
FP	福村	10
FP	西岡	0
FP	田中	3
FP	林	0
FP	寺島	0
FP	角谷	0
FP	河合	4
FP	荻原	1
	PT (5)	20

	〔日大〕	得
GK	堀江	0
GK	増見	0
FP	堀	1
FP	春木	3
FP	田子	0
FP	大薮	0
FP	雨宮	5
FP	小河原	1
FP	渡辺	4
FP	山田	5
FP	丹羽	3
FP	西岡	4
	PT (1)	26

〔審・高橋　森山〕

筑波大26（13 13／8 10）18中部大

〔戦評〕筑波大はセンター鎌田を中心に速いパス回しから中部大のディフェンスを広げ、ポスト、サイドシュートなどで点をあげていった。また、ディフェンスが低い位置の時は45度疋田、田中がロングシュートを決めた。一方中部大は筑波大の高い位置のディフェンスに苦しみ、遠くから無理なシュートを打たされていた。それでもセンター長嶺のアシストパスによるポストシュートなどで何とか食い下がった。

後半は長嶺を45度の位置に変え、ようやくロングシュートが決まりだし、3点差まで詰め寄った。そして17分、筑波大が2人の退場者を出しチャンスを迎えたが、GK沢井の好守にあいそれ以上差をつめることができず、逆にパスミスなどが目立ち、筑波大の速攻を受けて差を広げられてしまった。

〔中部大〕		得
GK	水谷	0
GK	石原	0
FP	塩坂	6
FP	堀田	1
FP	坂	0
FP	同前	0
FP	植村	0
FP	興儀	3
FP	内田	0
FP	由浅	0
FP	長嶺	8
FP	長田	0
PT	(4)	18

〔審・浅井 山本〕

〔筑波大〕		得
GK	沢井	0
GK	片山	0
FP	久保田	3
FP	新井	1
FP	津兼	1
FP	村杉	0
FP	加藤	2
FP	宜保	1
FP	田中	5
FP	疋田	5
FP	吉田	6
FP	鎌田	2
PT	(2)	26

〔順位〕①筑波大②中部大③日本大④大阪体育大

3位決定戦

福岡大 30（11-14, 19-13）27 中部大

〔戦評〕序盤は両チームとも堅さが見られたが、中部大は長嶺のロングシュート、塩坂のミドルシュートなどで押し気味に試合を進めれば、福岡大は末岡のミドルシュート、大坪のサイドで盛り返し、中部大の反則で多くのPTを決め逆転する。中部大も勝ちをあせった福岡大のミスにつけこんで堀田のサイドシュート、長嶺のロングシュートや塩坂の3連続得点で必死に追い上げるが、この日福岡大はGK林に変わって入った篠原の好キープに助けられて逃げ切った。

〔中部大〕		得
GK	水谷	0
GK	石原	0
FP	塩坂	6
FP	堀田	6
FP	坂	2
FP	同前	1
FP	植村	0
FP	興儀	2
FP	由浅	0
FP	長嶺	7
FP	中村	1
FP	長田	2
PT	(1)	27

〔審・岡本 清水〕

〔福岡大〕		得
GK	北林	0
GK	篠原	0
FP	喜友名	6
FP	久保野	1
FP	浦塘	0
FP	笠	1
FP	大坪	6
FP	中山	5
FP	末岡	4
FP	清水	0
FP	田中	5
FP	野木	2
PT	(6)	30

決勝

早稲田大 24（13-8, 11-13）21 筑波大

〔戦評〕序盤、堅さの見られる筑波大のディフェンスに対して早大は甲斐のロングシュート、カットインシュート、アシストによる菰原のロングシュートで15分までに9-3と大量リードし、このままいくかに見えたが、筑波大も甲斐を注意してディフェンスを固め、速攻の連続7ゴールで一挙に追いついた。

しかし、後半早大は始めの5分で逆転、その後は早大・大村、大橋のミドルシュート、筑波大・疋田のカットインシュート、吉田のサイドシュートなどで一進一退の攻防を繰り返したが、12分と13分に筑波大に連続して退場が出たため3点差がつき、逆転を狙う筑波大は田中、疋田のロング、ミドルシュートで追い上げ、残り30秒で1点差まで詰め寄るが、早大GK高橋の好キープに何度もシュートを封じられ、結局最後まで逆転することができず、早大の優勝となった。

〔筑波大〕		得
GK	沢井	0
GK	片山	0
FP	久保田	4
FP	新井	1
FP	津兼	1
FP	村杉	0
FP	加藤	2
FP	宜保	3
FP	田中	4
FP	疋田	4
FP	吉田	2
FP	鎌田	0
PT	(2)	21

〔審・浅井 山本〕

〔早大〕		得
GK	高橋	0
GK	須藤	0
FP	甲斐	8
FP	清田	2
FP	小林	0
FP	大中	0
FP	大橋	5
FP	大村	4
FP	菰原	5
FP	鳥平	0
FP	原	0
PT	(3)	24

女子

予選リーグ

▼A組

東女体大 35（18-6, 17-1）7 東海大
大体大 34（19-4, 15-7）11 中京女大
東女体大 28（13-5, 15-7）12 中京女大
大体大 28（14-4, 14-5）9 東海大
東女体大 38（23-10, 15-9）19 大体大
中京女大 24（13-6, 11-9）15 東海大

〔順位〕①東京女子体育大②大阪体育大③中京女子大④東海大

▼B組

福岡大 37（22-6, 15-11）17 千明短大
日女体大 24（13-8, 11-8）16 大教大
福岡大 33（16-9, 17-4）13 大教大
日女体大 24（12-8, 12-6）14 千明短大
福岡大 23（13-11, 10-10）21 日女体大
大教大 27（14-12, 13-8）20 千明短大

〔順位〕①福岡大②日本女子体育大③大阪教育大④千葉明徳短期大

▼C組

日体大 35（18-4, 17-11）15 東学大
天理大 28（14-8, 14-10）18 中京大
日体大 25（10-8, 15-7）15 中京大
天理大 25（12-7, 13-4）11 東学大
日体大 35（19-5, 16-6）11 天理大

東学大 24（15－5、9－8）13 中京大

〔順位〕①日本体育大②天理大③東京学芸大④中京大

▼D組

武庫川女子 34（15－3、9－5）8 岩手大

筑波大 58（27－4、31－6）10 福教大

武庫川女大 44（26－4、18－7）11 福教大

筑波大 55（29－0、26－3）3 岩手大

筑波大 25（12－10、13－13）23 武庫川女大

福教大 27（16－5、11－9）14 岩手大

〔順位〕①筑波大②武庫川女子大③福岡教育大④岩手大

準決勝リーグ

▼I組

東女体大 29（13－9、16－7）16 日女体大

〔戦評〕前半、東女体大は田鹿、日比野の両エースを中心に得点を重ねていった。一方日女体大も45度の中野のカットイン、ポストへのパスで食い下がったが、東女体大の厚いディフェンスに反則やパスミスを誘われ、速攻により点差を広げられた。後半に入ると、東京体大は田鹿、日比野を中心としたセットオフェンスと速攻で加点し、日女体大もポストプレーを中心に反撃するが、前半の点差が響き、東女体大が勝利を収めた。

得	〔東女〕		〔日女〕	得
0	蒔田	GK	尾焼	0
0	村山	GK	宇井	0
2	藤井	FP	井出	3
6	楠	FP	北島	1
1	川西	FP	竹原	0
2	佐藤	FP	中野	4
3	伝法谷	FP	増田	0
1	竹野	FP	渡辺	1
6	田鹿	FP	真名子	4
0	吉野	FP	三村	2
3	井口	FP	柳原	0
5	日比野	FP	湯野川	1
29	(3)	PT	(3)	16

〔審・大和、中園〕

大体大 17（8－10、9－5）15 福岡大

〔戦評〕序盤は福岡大・竹馬、大体大・松本の両GKの好守が目立ち、両チームともなかなか点をあげることができない。しかし、大体大は中盤過ぎからロング、サイドと確実にシュートが決まりだし点差が広がっていった。

後半に入っても、大体大は池田を中心としたセットプレーで得点を重ねていった。一方福岡大は、速攻でのパスミスが目立ち、点差を縮めることができなかった。しかし、残り6分からGK竹馬の好守からの速攻で得点をあげてから動きが良くなり1点差まで詰め寄ったが、残り30秒、大体大の堀内がポストシュートを決め、そのままノータイムとなった。

得	〔大体〕		〔福岡〕	得
0	田中	GK	竹馬	0
0	松本	GK	土谷	0
4	池田	FP	太田	4
0	加藤	FP	立花	2
0	田中	FP	藤村	6
0	堀内	FP	喜屋原	0
1	桝田	FP	新垣	3
3	飯田	FP	甲斐	0
3	富広	FP	合屋	0
3	比嘉	FP	小林	0
0	森本	FP	新坂	0
3	山本	FP	山下	0
17	(0)	PT	(4)	15

〔審・浅田、飼沼〕

大体大 20（8－9、12－3）12 日女体大

〔戦評〕最初から大体大は池田、飯田のフェイントからカットインプレーを中心にそこからのサイドへのずらしで得点を重ねていった。また、大体大のディフェンスもボールに対しての詰めが速く、日女体大は遠くからの中野の苦しいシュートが多くなり点差が次第に広がっていった。

しかし、後半の10分頃から大体大のカットインに対し日女体大も速い詰めで対応するようになり、大体大はチャージの反則が目立つようになり、互角の攻防が続いた。しかし、前半の大差が響き、大体大が逃げ切った。

得	〔大体〕		〔日女〕	得
0	田中	GK	焼津	0
0	松本	GK	宇井	0
1	池田	FP	井出	4
0	加藤	FP	北島	1
0	飛垣	FP	竹原	0
1	堀内	FP	中野	2
3	桝田	FP	増田	0
5	飯田	FP	渡辺	0
1	富広	FP	真名子	4
7	比嘉	FP	三村	1
0	森本	FP	柳原	0
2	山本	FP	湯野川	0
20	(3)	PT	(1)	12

〔審・田原、佐伯〕

東女体大 34（15－9、19－3）12 福岡大

〔戦評〕序盤から東女体大は両45度田鹿、日比野のロングシュートを中心にそれに合わせたポスト、サイドシュートで着々と得点を重ねていった。福岡大は東女体大の高いディフェンスに苦しみ、ボールを外へ外へと回すが、パスミスが多くなかなかシュートが打てない。また、苦しまぎれに打ったシュートを逆に速攻にもっていかれ点差は広がる一方になった。

後半の中盤あたりからようやく福岡大・新坂のサイドシュートなどが決まるようになったが、東女体大も田鹿、日比野がディフェンスを引き寄せ、ポストシュートなどで点を加え、大差をつけ福岡大を破った。

得	〔東女〕		〔福岡〕	得
0	蒔田	GK	竹馬	0
0	村山	GK	土谷	0
6	藤井	FP	太田	1
5	楠	FP	立花	0
2	川西	FP	藤村	2
4	佐藤	FP	喜屋原	0
3	伝法谷	FP	民本	0
0	竹野	FP	新垣	2
6	田鹿	FP	甲斐	0
0	吉野	FP	小林	3
1	井口	FP	新坂	3
7	日比野	FP	山下	1
34	(4)	PT	(0)	12

〔審・浅田、飼沼〕

〔順位〕①東京女子体育大②大阪体育大③福岡大④日本女子体育大

▼II組

日体大 25（12－11、13－7）18 武庫川女子大

〔戦評〕前半、武庫川女大は日体大の厚いディフェンスに攻めあぐみ、なかなか得点をあげることができなかった。その間に日体大は速攻を中心に着実に点差を広げていった。しかし、武庫川女大も前半残り10分ぐらいから動きが良くなり、キャプテン城のサイド、ミドルシュートなどで差を詰めていった。

後半に入ると日体大にミスが目立ち始め、逆に武庫川女大が速攻を中心に点を重ね、後半14分、岸間のポストシュートでついに追いついた。しかし、後半残り10分ぐらいから日体大のディフェンスが堅くなり、武庫川女大はまた攻めあぐみ、日体大は速攻で武庫川女大を突き放し、そのまま逃げ切った。

	〔武庫川〕	得		〔日体〕	得
GK	前川	0	GK	松永	0
GK	渡部	0	GK	小松崎	0
FP	河瀬	0	FP	市来	4
FP	岸間	1	FP	大間	5
FP	城	4	FP	外館	4
FP	米田	4	FP	新田	0
FP	塩崎	4	FP	人見	1
FP	西村	3	FP	小島	1
FP	篠原	2	FP	小林	3
FP	千秋	0	FP	児玉	1
FP	永井	0	FP	竹吉	5
FP	西	0	FP	福城	2
PT		(3)	PT		(3)
		18			26

〔審・高橋　森山〕

筑波大 29 〔14―4／15―8〕 12 天理大

〔戦評〕立ち上がりから両チームとも加点していき、筑波大は林のカットインシュートや楠のサイドシュートを打てば、天理大は牧村のロング、松崎のサイドなどを打ってきたが、再三の天理のシュートも筑波GK吉村の好守に阻まれ点差はさらに広がる。

後半に入ると、筑波大は逆速攻からの磯山、相川らがシュートを打ち、点差は近づかず、天理大は退場者が続出し、なかなか点が取れず、GK山中の好守も筑波大の厚いディフェンスとGK吉村の好守の前には影にかくれてしまった。

	〔天理〕	得		〔筑波〕	得
GK	山中	0	GK	吉村	0
FP	藤江	3	GK	樫山	0
FP	三浦	0	FP	鋤崎	1
FP	清水	0	FP	相川	3
FP	堀田	0	FP	山崎	3
FP	牧村	4	FP	和田	1
FP	松崎	2	FP	磯山	6
FP	鹿島	1	FP	大塚	2
FP	田中	1	FP	白鳥	1
FP	津田	0	FP	中山	5
FP	橋本	1	FP	林	6
			FP	柳内	1
PT		(0)	PT		(2)
		12			29

〔審・田原　佐伯〕

天理大 24 〔9―12／15―11〕 23 武庫川女大

〔戦評〕序盤から天理大は、武庫川女子のエース西村にマンツーマンをつかせた1・5ディフェンスで相手の攻撃をよく防ぎ、守りからの速攻で加点して前半20分頃から元気のない武庫川にたたみかける攻めで4点差とした。

武庫川も後半少しずつ盛り返し西村のポストに回してのパス回しからのずらしや、マンツーマンをかわしての西村のロングなどで残り4分に22―22の同点に追いついたが、勢いのある天理大は武庫川女大をふり切って勝った。

	〔武庫川〕	得		〔天理〕	得
GK	渡部	0	GK	山中	0
GK	喜多	0	FP	藤江	3
FP	城	2	FP	三浦	0
FP	奥本	0	FP	清水	0
FP	塩崎	2	FP	堀田	1
FP	西村	4	FP	牧村	9
FP	木村	0	FP	松崎	1
FP	篠原	1	FP	鹿島	3
FP	千秋	1	FP	田中	2
FP	永井	9	FP	津田	0
FP	西	4	FP	橋本	5
PT		(0)	PT		(1)
		23			24

〔審・田原　佐伯〕

筑波大 25 〔16―10／9―12〕 22 日体大

〔戦評〕日体大は市来を軸に大間、新田のパスで加点していき、一方筑波大はパス回しから林、中山のロングで対抗し、後半15分まではほぼ互角であったが、16―16となり、日体大はGK松永をフィールドに送り、7人攻撃を試みるが逆にミスを犯し、逆転される。そこで流れが筑波大に傾き、林、中山のロングシュートも冴え、GK吉村の好守に支えられ、日体大をふり切った。

	〔日体〕	得		〔筑波〕	得
GK	松永	0	GK	吉村	0
GK	小松崎	0	GK	山下	0
FP	市来	2	FP	鋤崎	1
FP	大間	5	FP	相川	1
FP	外館	4	FP	山崎	1
FP	新田	0	FP	和田	4
FP	人見	0	FP	磯山	0
FP	小島	0	FP	大塚	0
FP	小林	2	FP	白鳥	0
FP	児玉	4	FP	中山	9
FP	竹吉	5	FP	林	5
FP	福城寺	0	FP	柳内	4
PT		(5)	PT		(1)
		22			25

〔審・森山　高橋〕

〔順位〕①筑波大②日本体育大③天理大④武庫川女子大

3位決定戦

日体大 21 〔11―9／10―10〕 19 大体大

〔戦評〕両チームともセンターから切り崩してサイドへのずらし、カットインと似たような攻めをした。後半始まってすぐ、大体大は日体大の市来にマンツーマンをつけ日体大のパス回しを封じ、またGK松本の好守もあり差をつけだした。しかし、日体大もGKを小松崎から松永に変え、相手のシュートを止め、そこから速攻で攻める形に変えてきた。また、後半20分頃から大体大はシュートが甘くなり始め、日体大の速攻に連続してあい、遂に送転された。残り3分、日体大は勝利を意識しだし、簡単なミスが出て大体大に1点差まで迫られたが、そのまま試合終了の笛が鳴った。

	〔大体〕	得		〔日体〕	得
GK	田中	0	GK	松永	0
GK	松本	0	GK	小松崎	0
FP	池田	1	FP	市来	4
FP	加藤	1	FP	大間	3
FP	田中	0	FP	外館	3
FP	飛垣	0	FP	新田	0
FP	堀内	0	FP	人見	0
FP	桝田	6	FP	小島	0
FP	飯田	6	FP	小林	4
FP	比嘉	7	FP	児玉	0
FP	森本	0	FP	竹吉	7
FP	山本	0	FP	福城寺	1
PT		(7)	PT		(5)
		21			22

〔審・浅田　飼沼〕

決勝

東女体大 25 〔14―10／11―7〕 17 筑波大

〔戦評〕筑波大は序盤からエース中山、林の動きが悪く、ロングシュートが決まらず、そこから東女体大の速攻を受け苦しい試合が続いた。途中、何度かフローターを変えて流れを変えようとしたが、東女体大GK村山の好守もあり、どうしても東女体大ペースだった。東女体大は速攻に加え、セットプレーでもセンター藤井のカットインを中心に日比野、田鹿の両エースのロングシュートで得点していった。しかし、点差があるため、あせりからパスミスが目立つようになり、東女体大の速攻で点差を再び広げられ、そのまま東女体大が優勝を決めた。

	〔筑波〕	得		〔東女〕	得
GK	吉村	0	GK	蒔田	0
GK	樫山	0	GK	村山	0
FP	鋤崎	2	FP	藤井	6
FP	相川	4	FP	楠	5
FP	山崎	0	FP	川西	0
FP	和田	4	FP	佐藤	0
FP	磯山	0	FP	伝法谷	2
FP	大塚	0	FP	竹野	0
FP	白鳥	0	FP	田鹿	7
FP	中山	2	FP	吉野	0
FP	林	2	FP	井口	1
FP	柳内	3	FP	日比野	4
PT		(2)	PT		(3)
		17			25

〔審・森山　高橋〕

第13回日本リーグ前期 ②部

男子

10月29日（土）　愛知・知立福祉体育館

トヨタ車体 24 〔12−8 / 12−11〕 19 豊田自動織機

〔戦評〕試合開始直後は両チーム共ボールが今一つ手につかず、また、車体の初得点が前半6分と両チーム共スロースタートの試合となった。前半は1点差で折り返すが、後半15分までは2点差のシーソーゲームが続いた。後半10分頃より車体の速攻が決まり出し、そのまま逃げ切った。

得	〔車体〕		〔織機〕	得
0	宮田	GK	柴田	0
0	村林	GK	中村	0
2	吉積	FP	蟹江	8
10	長野	FP	奥畑	3
0	蓑田	FP	大野	5
4	君島	FP	諌山	1
3	藤長	FP	山内	1
5	松井	FP	笹嶺	0
0	平野	FP	新田	0
0	久保山	FP	大城	1
0	井上	FP	鎌田	0
0	河合	FP	杉浦	0
24	(3)	PT	(4)	19

（審・岩橋　大和田）

トヨタ自動車 26 〔12−16 / 14−8〕 24 中村荷役

〔戦評〕両チーム共2部では1、2を争う大型チーム。中村荷役は飯田、三尾、トヨタは坂口、松尾と目を見はるばかりの巨人同士がぶつかり合ったが、立ち上がり早々から若いトヨタのスピードが勝り、動きの鈍い中村荷役を圧倒した。その後、終盤の中村荷役の追い上げにもあわてることなく、余裕をもって振り切った。

得	〔自動車〕		〔中村〕	得
0	中西	GK	高橋	0
0	富森	GK	飯塚	0
3	香井	FP	三尾	5
6	川田	FP	塚田	3
3	酒井	FP	中村	0
5	堀江	FP	大木	6
0	中西	FP	下戸城	2
4	坂口	FP	松本	3
4	松尾	FP	堀戸	0
0	石本	FP	池田	0
0	村上	FP	飯田	3
1	杉元	FP	坂口	2
26	(2)	PT	(3)	24

（審・杉本　工藤）

三景 30 〔15−15 / 15−8〕 23 日鉄建材

〔戦評〕前半20分過ぎまで両チーム共ボールが手につかず、シーソーゲームを繰り返したが、三景の速攻が決まり始め、前半を7点差で終了した。後半の立ち上がり、日鉄建材・上山のシュートで盛り返しを見せたが、前半の得点差が大きく、三景が余裕をもって逃げ切った。

得	〔三景〕		〔日鉄〕	得
0	北川	GK	川上	0
0	長橋	GK		
3	田村	FP	霜村	0
8	福士	FP	杉本	5
6	西川	FP	山口	3
9	斉藤	FP	池辺	1
0	大谷	FP	上山	4
2	小金山	FP	外山	3
0	大原	FP	清原	2
2	赤池	FP	古川	0
		FP	若本	4
		FP	玉嶋	1
30	(1)	PT	(0)	23

（審・吉田　川合）

本田技研熊本 29 〔12−11 / 17−9〕 20 大阪ガス

〔戦評〕若さとパワーに勝る本田熊本は、立ち上がりから山口、川崎、荒田らが快調にとばし、はつらつとしたプレーで着々と加点。対する大阪ガスも小柄ながらも中村、藤田らのスピード、テクニックで反撃するが、単発となり、差は広がっていった。本田熊本の終始変わらぬ走りのプレーは、新ルールの狙いを十分に生かしたものであり、大阪ガスはこれについて行くことが出来なかった。

得	〔熊本〕		〔ガス〕	得
0	中尾	GK	福田	0
0	宮本	GK		
3	矢野	FP	奥野	2
2	荒田	FP	竹志	0
3	三代	FP	中村	6
4	松村	FP	長田	4
3	田中	FP	水谷	4
6	山口	FP	日坂	0
7	川崎	FP	藤田	4
0	長野	FP	森	0
1	佐伯	FP		
0	長野	FP		
29	(2)	PT	(0)	20

（審・渡辺　楓）

10月30日（日）　愛知・蒲郡体育センター体育館

中村荷役 28 〔16−19 / 12−9〕 28 本田技研熊本

〔戦評〕超ベテランで固めた中村荷役は、老かいな試合運びで立ち上がりスルスルと4−1までリード。いったん追いつかれたものの、シーソーゲームの中から機を見たコンビプレーで若い本田熊本のディフェンスをほんろう、終盤抜け出て3点差で前半を終了。後半も好調を続ける中村荷役は8分過ぎ17−10と差を広げたが、粘る本田熊本は、長野、佐伯を投入して必死の立て直しを図り、24分に24−24の同点に追いつく。しかし、中村荷役も池田の速攻で連続ゴール、勝負あったかに見えたが、本田熊本が執念でラスト8秒、長野のペナルティースローで追いつき、引き分けた。

得	〔熊本〕		〔中村〕	得
0	中尾	GK	高橋	0
0	宮本	GK	飯塚	0
0	矢野	FP	三尾	4
0	荒田	FP	塚田	1
6	三代	FP	中村	0
3	松村	FP	大木	7
3	田中	FP	下戸成	0
2	山口	FP	松本	3
2	川崎	FP	堀戸	2
0	長野	FP	池田	8
3	佐伯	FP	飯田	3
9	長野	FP	坂口	0
28	(5)	PT	(0)	28

（審・岩橋　木和田）

トヨタ自動車 43 〔22−14 / 21−7〕 21 大阪ガス

〔戦評〕高さに勝るトヨタは開始30秒、坂口の打点からのロングシュートで先行、香井、酒井らのスピードあふれるプレーで加点していった。大阪ガスも細かいパスワークで対抗するものの、トヨタの高い壁に阻まれ、前半で14点差と大きく差がついた。後半になってもトヨタの勢いは変わらず、若手を繰り出す余裕を見せながらも差を広げ、43−21と実力の差を見せつけた。

得	〔自動車〕		〔ガス〕	得
0	中西	GK	福田	0
0	富森	GK		
11	香井	FP	奥野	2
5	川田	FP	竹志	6
5	酒井	FP	中村	3
7	堀江	FP	長田	8
0	平野	FP	水谷	0
7	坂口	FP	田坂	1
2	松尾	FP	藤田	1
3	石本	FP	森	0
1	村上	FP		
3	杉元	FP		
44	(0)	PT	(2)	21

（審・杉本　今井田）

三景 34 〔15−16 / 19−10〕 26 豊田自動織機

〔戦評〕立ち上がりから三景の動きは軽快で速攻を連発、GK北川の好守もあって6分過ぎまでに6

―0と圧倒した。その後自動織機も追いかけはしたが、この間の無得点があまりにも大きく、前半は19―10の9点差。後半は自動織機サイド陣が踏んばりを見せ、一進一退の展開となり、残り5分には30―24と盛り返したものの、余裕の三景は落ち着いたプレーで白星を重ねた。

〔織機〕	得		〔三景〕	得
柴田	0	GK	北川	0
			長崎	0
蟹江	7	FP	田村	3
奥畑	2		近藤	2
大野	2		福永	1
諌山	8		福士	8
山内	4		西川	4
笹嶺	0		斉藤	12
大城	1		大谷	0
鎌田	0		小金山	5
杉浦	1		木原	0
			赤池	0
		（審・木和田、岩橋）		
(3)	26	PT	35	(0)

トヨタ車体 30（15―10、15―9）19 日鉄建材

〔戦評〕前半、両チーム共単調な攻めを繰り返し、決め手がなく、どちらが先に調子に乗るかであった。ようやく20分過ぎより車体のコンビネーションプレーが決まり始め、6点差で前半を終了した。後半、日鉄建材も動きが良くなり粘りを見せたが、地方に勝る車体が控えの選手を入れる余裕を見せ勝利をものにした。

〔日鉄〕	得		〔車体〕	得
川上	0	GK	宮田	0
			村林	0
霜村	0	FP	吉積	7
杉本	3		長野	2
山口	1		蓑田	5
池辺	4		君島	7
上山	5		藤長	1
清原	1		松井	3
古川	2		平野	2
若本	0		久保山	2
玉嶋	3		井上	1
			河合	0
		（審・工藤、今井田）		
(1)	19	PT	30	(0)

11月5日（土）京都・八幡市民体育館

トヨタ自動車 33（13―7、20―13）20 日鉄建材

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームとも動きが固く、シュートミスが多かったが、5分過ぎから次第にトヨタ自動車がリズムをつかみ始め、じりじりと点差を広げる。日鉄建材もエース上山を中心に懸命に反撃するがシュートミスが多く、点差を縮めることができない。後半に入っても同様の展開で、トヨタ自動車が余裕をもってふり切った。

〔日鉄〕	得		〔自動車〕	得
岩嶋	0	GK	中西	0
川上	0		富森	0
霜村	0	FP	香井	4
杉本	2		川田	9
山口	6		酒井	2
池辺	2		堀江	8
上山	4		平野	2
外山	2		白坂	0
清原	0		坂口	6
古川	2		松尾	2
若本	2		村上	0
玉嶋	0		杉元	0
		（審・奥田、丸谷）		
(0)	20	PT	33	(1)

本田技研熊本 29（15―8、14―6）14 豊田自動織機

〔戦評〕前半立ち上がりは、ともにスロースタート、豊田自織は初得点が6分過ぎ。それでも15分頃までほぼ互角の展開だったが、中盤から豊田のシュートが決まらず、逆にディフェンスが荒くなってPTを確実に決めた本田技研熊本が着々と加点、前半で14―6と大差をつけて勝負を決めた。

〔織機〕	得		〔熊本〕	得
柴田	0	GK	中尾	0
中村	0		宮本	0
蟹江	6	FP	矢野	1
奥畑	3		荒田	8
大野	2		三代	2
諌山	0		松村	5
山内	3		田中	3
笹嶺	0		山口	6
大城	0		川崎	0
鎌田	0		長野	1
杉浦	0		佐伯	0
			長野	3
		（審・佐路、岸本）		
(2)	14	PT	29	(3)

三景 31（16―12、15―14）26 大阪ガス

〔戦評〕前半の立ち上がりは三景ペース、12分には9―4とリードを奪う。しかし、中盤を過ぎてみんなで万遍なくシュートを決める大阪ガスがジリジリと追い上げ、前半を終了してみれば僅か1点差、後半もほぼ一進一退の展開を見せたが、勝負どころの20分頃に大阪ガスは7分間にわたって無得点、ここで着実に加点した三景が、終盤粘る大阪ガスを突き放した。

〔ガス〕	得		〔三景〕	得
福田	0	GK	北川	0
			長橋	0
奥野	3	FP	田村	2
竹志	0		近藤	4
中村	2		福永	0
長田	5		福士	11
水谷	4		西川	5
田坂	7		斉藤	8
藤田	4		大谷	0
高砂	1		小金山	1
			木原	0
			赤池	0
		（審・奥田、丸谷）		
(0)	26	PT	31	(1)

トヨタ車体 26（15―12、11―12）24 中村荷役

〔戦評〕立ち上がり両チームともシュートが決まらず、実に5分を過ぎて両チームともに無得点。トヨタ車体・蓑田がようやく5分過ぎに初得点。しかし、中村は得点できず、せっかく得たペナルティースローを失敗するなどのまずい展開で、初得点は10分。だが、ここから共に一進一退の点の取り合いを見せ、前半を終ってみれば12―11と中村の1点リードであった。後半に入っても、終始中村が先手をとっていたが、18分過ぎになってようやく20―20の同点に追いつき、24分過ぎに逆転した車体が、ようやく逃げ切った。

〔中村〕	得		〔車体〕	得
石井	1	GK	宮田	0
飯塚	0		村林	0
三尾	7	FP	吉続	3
塚田	4		長野	13
中村	0		蓑田	0
大木	4		君島	5
下戸城	0		藤長	2
松本	3		松井	1
堀戸	0		平野	0
池田	2		久保山	1
飯田	2		荻原	0
坂口	0		井上	0
		（審・佐路、岸本）		
(2)	24	PT	26	(1)

11月6日（日）京都・八幡市民体育館

トヨタ自動車 27（17―9、10―11）20 三景

〔戦評〕スタートは両チーム共に動きが固く、得点の動きがなく、11―10と三景リードで前半終了、後半は一転トヨタペースでスタート、坂口を中心に得点を重ね、17―14とトヨタのリードで10分経過。その後三景も積極的に攻めるが、トヨタの厚い守りがものをいい、得点が伸びず、得点力に勝るトヨタペースのままゲームセット。

〔三景〕	得		〔自動車〕	得
北川	0	GK	中西	0
長橋	0		富森	0
田村	3	FP	香井	3
近藤	1		川田	7
福永	0		酒井	4
福士	7		堀江	2
西川	2		平野	0
斉藤	5		白坂	0
大谷	0		坂口	7
小金山	2		田村	0
木原	0		松尾	4
赤池	0		杉元	0
		（審・吉田、岸本）		
(1)	20	PT	27	(2)

本田技研熊本 30（14―12、16―10）22 日鉄建材

〔戦評〕前半から本田熊本のペースで、地力の差でそのまま押し切ったようなゲームであった。前半10分過ぎから本田熊本の川崎が連

〔日鉄〕	得		〔熊本〕	得
岩嶋	0	GK	中尾	0
川上	0		宮本	0
霜村	0	FP	矢野	0
杉本	3		荒田	4
山口	5		三代	5
池辺	3		松村	2
上山	6		田中	1
外山	0		山口	1
清原	0		川崎	12
古川	0		長野	3
若本	3		佐伯	0
玉嶋	2		長野	2
		（審・藤本、田中）		
(0)	22	PT	30	(3)

続8得点を決め、あとは安定した試合運びで快勝した。

トヨタ車体 25 〔15—9，10—10〕 19 大阪ガス

〔戦評〕車体の長崎の調子が良く10分で5—4、15分で8—4と加点し、車体が主導権を取ったゲーム展開。一方大阪ガスも奥野を中心にペースを取り戻し、後半は一進一退の展開となり、15—9で前半終了。後半はスピーディなプレーの連続で追いつ追われつの展開となり、その中で大阪ガスがペースをつかみ始め、15分で15—19と4点差に追い上げてきた。しかし前半の得点差が重く、25—19でタイムアップ。

	〔ガス〕	得	〔車体〕	得
GK	福田	0	宮田	0
GK			村林	0
FP	奥野	2	吉続	3
FP	竹志	1	長野	9
FP	中村	2	蓑田	1
FP	長田	4	君島	5
FP	水田	6	藤長	1
FP	田坂	2	松井	5
FP	藤田	2	平野	0
FP	森	0	久保山	1
FP			萩原	0
FP			井上	0
PT	(4)	19	(3)	25

（審・吉田、岸本）

中村荷役 27 〔15—10，12—11〕 21 豊田自動織機

〔戦評〕中村荷役は現役復帰した飯田のゲームメークで要所を押さえ、若手をまとめながら自軍ペースのゲーム展開を進めた。自動織機も奥畑、諫山を中心とし、よく攻めたが、今一歩のところで追い上げがならず、4敗目を喫した。

	〔織機〕	得	〔中村〕	得
GK	柴田	0	石井	0
GK	中村	0	飯塚	0
FP	蟹江	4	三尾	8
FP	奥畑	6	塚田	3
FP	大野	1	中村	0
FP	諫山	4	大木	4
FP	山内	3	下戸城	1
FP	笹嶺	0	松本	2
FP	新田	0	堀戸	3
FP	大城	0	池田	2
FP	鎌田	0	飯田	2
FP	杉浦	3	坂口	2
PT	(2)	21	(2)	27

（審・藤本、田中）

11月12日（土）
広島・広島県立体育館

大阪ガス 24 〔13—9，11—12〕 21 日鉄建材

〔戦評〕前半はやや大阪ガスが押し気味で、一進一退を繰り返して折り返した。後半は日鉄建材がエースを中心に追い上げ、1点差まで追い上げるが、ミスが目立ち、結局大阪ガスが逃げ切った。

	〔日鉄〕	得	〔ガス〕	得
GK	川上	0	福田	0
FP	霜村		奥野	5
FP	杉本	3	竹志	0
FP	山口	4	中村	5
FP	池辺	0	長田	6
FP	上山	8	水谷	6
FP	外山	1	田坂	0
FP	清原	1	藤田	1
FP	古川	0	森	1
FP	若本	4		
FP	玉嶋	0		
PT	(1)	21	(3)	24

（審・塩見、長谷）

11月13日（日）
宮城・宮城県スポーツセンター

三　景 21 〔10—9，11—12〕 21 中村荷役

〔戦評〕立ち上がりから中村荷役は気迫あるプレーでリードしたが、中盤からジリジリと三景が追い上げ、前半10—9で中村荷役がリードした。

後半、中村荷役の三尾のロング、三景・斉藤の活躍で最後まで追いつ追われつのゲーム展開であったが、残り5秒、三景・斉藤の得点で引き分けた。

	〔中村〕	得	〔三景〕	得
GK	石井	0	北川	0
GK	飯塚	0		
FP	三尾	4	田村	3
FP	塚田	5	近藤	3
FP	中村	0	福永	2
FP	大木	5	福士	7
FP	下戸成	0	斉藤	6
FP	松本	0	太谷	0
FP	堀戸	0	小金山	0
FP	池田	4	木原	0
FP	飯田	2	赤池	0
FP	坂口	1	長橋	0
PT	(3)	21	(4)	21

（審・守屋、照井）

11月20日（日）
福岡・北九州市立総合体育館

本田技研熊本 19 〔8—12，11—7〕 19 トヨタ車体

〔戦評〕本田熊本は厚いディフェンスとGKの好守により速攻、カットインで得点を重ねる。一方トヨタ車体は、本田熊本の攻撃ミスにより徐々に得点し、一進一退の攻防を続け、前半は車体が4点のリードで折り返す。後半開始10分で本田熊本は相手チームのミスにより同点に追いつき、その後双方共激しい攻防を繰り返すが、決定打が出ず、引き分けで終了する。

	〔車体〕	得	〔熊本〕	得
GK	宮田	0	中尾	0
GK	村林	0	宮本	0
FP	吉続	1	矢野	0
FP	長野	6	荒田	5
FP	蓑田	3	三代	3
FP	君島	3	松村	1
FP	藤長	3	田中	2
FP	松井	3	山口	5
FP	平野	0	川崎	3
FP	久保山	0	長野	0
FP	萩原	0	佐伯	0
FP	井上	0	長野	0
PT	(3)	19	(0)	19

（審・田原、前田）

11月23日（木）
愛知・豊田市体育館

トヨタ自動車 32 〔14—7，18—8〕 15 豊田自動織機

〔戦評〕トヨタ自動車のディフェンスが織機・奥畑、山内のロング陣を封じ込め、一方的な試合となった。トヨタは川田の10得点をはじめ、堀江のサイド、香井の速攻などで着々と加点、織機は諫山の老練なシュートで追ったものの及ばなかった。

トヨタの新人GK富森の堅実、果敢なゴールキーピングが光った。

	〔織機〕	得	〔自動車〕	得
GK	柴田	0	中西	0
GK	中村	0	富森	0
FP	蟹江	3	香井	5
FP	奥田	2	川田	10
FP	大野	0	酒井	0
FP	諫山	5	堀江	4
FP	山内	4	平野	2
FP	笹嶺	0	白坂	2
FP	大城	0	坂口	5
FP	杉浦	1	田村	2
FP			松尾	1
FP			杉元	1
PT	(1)	15	(3)	32

（審・楓、渡辺）

11月26日（土）
愛知・名古屋市体育館

トヨタ自動車 25 〔14—10，11—11〕 21 トヨタ車体

〔戦評〕前半、両チーム共シュートミスが目立っていたが、トヨタ自動車・坂口、川田のロングシュートが入り出したが、トヨタ車体・君島のロングシュートで得点を重ねていたが、14—10でトヨタ自動車がリードした。

後半に入り、立ち上がり荒っぽいプレーが目立ち、トヨタ車体の警告が多かった。前半のリードが大きく、そのままトヨタ自動車が逃げ切った。

	〔車体〕	得	〔自動車〕	得
GK	宮田	0	中西	0
GK	村林	0	富森	0
FP	吉続	0	香井	6
FP	長野	6	川田	6
FP	蓑田	0	酒井	2
FP	君島	7	堀江	1
FP	藤長	1	中西	0
FP	松井	7	平野	0
FP	平野	0	白坂	0
FP	久保山	0	坂口	7
FP	萩原	0	松尾	3
FP	井上	0	杉元	0
PT	(1)	21	(2)	25

（審・稲石、溝口）

三　景 28 〔12—9，16—14〕 23 本田技研熊本

〔戦評〕前半、三景は福士を中心とした攻撃パターンで着実に得点を重ねていくが、本田熊本も山口、三代で応戦する。後半に入り、近藤の好リードから波に乗った三景が本田熊本の追撃を許さずに逃げ切った。

位置	〔熊本〕	得	〔三景〕	得
GK	中尾	0	北川	0
GK	坂本	0	長橋	0
FP	矢野	0	田村	4
FP	荒田	1	近藤	3
FP	三代	3	福永	0
FP	松村	1	福士	11
FP	田中	1	西川	3
FP	山口	5	斉藤	4
FP	川崎	5	大谷	0
FP	長野	1	小金山	3
FP	佐伯	2	木原	0
FP	長野	4	赤池	0
PT	(3)	23	(6)	28

（審・岩橋・永田）

豊田自動織機 24（6—10、18—13）23 大阪ガス

〔戦評〕前半立ち上がり、両チーム共コンビネーションプレーが目立ち、追いつ追われつの展開だったが、自動織機・山内のシュートが決まり出し、5点リードして前半を終了。後半、大阪ガスGK福田の好守が目立ち、自織のシュートミスが多く、大阪ガスがコンビネーションなどで着実に得点を重ねた。しかし、前半の5点差が大きく、1点差で豊田自動織機が逃げ切った。

位置	〔ガス〕	得	〔織機〕	得
GK	福田	0	柴田	0
GK			中村	0
FP	奥野	5	蟹江	6
FP	竹志	0	奥畑	4
FP	中村	1	大野	2
FP	長田	6	諫山	4
FP	水谷	7	山内	6
FP	田坂	2	笹嶺	0
FP	藤田	2	大城	2
FP	森	0	鎌田	0
FP			杉浦	0
PT	(5)	23	(2)	24

（審・夏目・松ケ谷）

中村荷役 31（15—8、16—10）18 日鉄建材

〔戦評〕立ち上がりから中村荷役はスピード感あふれる攻撃で全員がよく走り、大木、松本らのミドル、ロングシュートで得点する。対する日鉄建材も、上山が一人気を吐くもののなかなかリズムをつかめず、結局、終始積極的な攻撃が目立った中村荷役が圧勝した。

位置	〔日鉄〕	得	〔中村〕	得
GK	岩嶋	0	石井	0
GK	川上	0	飯坂	0
FP	杉本	1	三尾	6
FP	山口	5	塚田	3
FP	池辺	2	中村	1
FP	上山	8	大木	6
FP	外山	0	下戸城	3
FP	清原	1	松本	4
FP	古川	1	堀戸	1
FP	若本	0	池田	4
FP			飯田	3
FP			坂口	0
PT	(2)	18	(4)	31

（審・川島・森）

11月27日（日）
愛知・名古屋市体育館

トヨタ自動車 26（13—8、13—13）21 本田技研熊本

〔戦評〕前半立ち上がり、トヨタ自動車・川田のミドルシュート、香井の速攻で2点を先取したが、本田熊本も山口のポストシュート、三代の速攻などで4連続ゴール。その後トヨタは川田を中心に得点を重ねた。本田熊本もダブルスカイを決めるなどして得点し、13—13で前半を終了した。後半、本田熊本はトヨタ・川田に対してマンツーマンディフェンスをしたが、攻撃でミスが目立ち、トヨタが先行した。本田熊本はベテラン長野を投入し、一度は同点に追いつくが、最後は26—21でトヨタ自動車が本田技研熊本をふり切った。

位置	〔熊本〕	得	〔自動車〕	得
GK	中尾	0	中西	0
GK	坂本	0	富森	0
FP	矢野	0	香井	4
FP	荒田	2	川田	9
FP	三代	1	酒井	1
FP	松村	3	堀江	5
FP	田中	0	中西	0
FP	山口	5	平野	3
FP	川崎	8	白坂	0
FP	長野	0	坂口	2
FP	佐伯	0	田村	0
FP	長野	2	松尾	2
PT	(2)	21	(5)	26

（審・川合・今井田）

三景 34（16—13、18—7）20 トヨタ車体

〔戦評〕両チーム共負けられない一戦。三景の先取点でスタート。シュートミスが目立つトヨタ車体に対して、左腕・西川らのシュートで着実した三景が18—7とリードして前半終了。後半に入ってもトヨタ車体はペースをつかみきれず、連続得点が取れない。残り12分は16点差とし、三景が楽勝した。

位置	〔車体〕	得	〔三景〕	得
GK	宮田	0	北川	0
GK	村林	0	長橋	0
FP	吉続	1	田村	3
FP	長野	9	近藤	4
FP	蓑田	1	福永	0
FP	君島	4	福士	6
FP	河合	0	西川	6
FP	藤長	2	斉藤	4
FP	松井	3	大谷	1
FP	平野	0	小金山	8
FP	久保山	0	木原	0
FP	井上	0	赤池	2
PT	(5)	20	(2)	34

（審・松ケ谷・夏目）

日鉄建材 28（12—10、16—12）22 豊田自動織機

〔戦評〕前半立ち上がりから日鉄建材は上山のロングシュート、カットインを中心に得点をあげた。豊田自動織機も諫山のサイドシュート、山内のロングシュートなどで得点したが、シュートミスが目立ち、日鉄にリードを許す。後半、自織は日鉄の上山にマンツーマン・ディフェンスをするなどしたが、日鉄GK川上の好キーピングにシュートが決まらず、28—22で日鉄が勝利を収めた。

位置	〔織機〕	得	〔日鉄〕	得
GK	柴田	0	岩嶋	0
GK	中村	0	川上	0
FP	蟹江	2	杉本	3
FP	奥畑	4	山口	9
FP	大野	3	池辺	2
FP	諫山	5	上山	12
FP	山内	5	外山	1
FP	笹嶺	0	清原	0
FP	大城	0	古川	0
FP	鎌田	0	若本	1
FP	杉浦	3		
PT	(1)	22	(2)	28

（審・川合・今井田）

中村荷役 29（13—9、16—12）21 大阪ガス

〔戦評〕中村荷役は立ち上がりペナルティースローで2得点したが大阪ガスも中村荷役の甘いディフェンスをつき得点をあげたが、要所要所で中村荷役の飯田に得点を許した。

後半、大阪ガスは連続2得点したが、中村荷役がガスの甘いディフェンスをつき速攻、ポストなどで得点を加えふり切った。

位置	〔ガス〕	得	〔中村〕	得
GK	福田	0	石井	0
GK			飯塚	0
FP	奥野	0	三尾	6
FP	竹志	1	塚田	2
FP	中村	2	中村	0
FP	長田	8	大木	10
FP	水谷	5	下戸成	0
FP	田坂	3	松本	2
FP	藤田	2	堀戸	0
FP	森	0	池田	6
FP			飯田	3
FP			坂口	0
PT	(5)	21	(4)	29

（審・森・足立）

〔順位〕①トヨタ自動車（7勝）②三景（5勝1分1敗）③トヨタ車体（4勝1分2敗）④中村荷役（3勝2分2敗）⑤本田技研熊本（3勝2分2敗）⑥日鉄建材工業（1勝6敗）⑦大阪ガス（1勝6敗）⑧豊田自動織機（1勝6敗）

女子

10月23日（日）
香川・香川町総合体育館

北国銀行 27（14—13、13—8）21 ブラザー工業

〔戦評〕北国銀行の切れ味鋭いカットインプレーやサイドシュートがよく決まり、前半をリードした。ブラザーもポストプレーなどで応戦するが、GK木戸の攻守に阻まれ、思うように得点できず前半を終了した。後半の立ち上がり、ブラザーの速攻がよく決まり追い上げるが、追撃がやや遅かった。

得	〔北国〕		〔ブ工〕	得
0	木戸	GK	大藪	0
0	岩井		岡本	0
5	上田	FP	荒木	6
6	林		末永	0
5	丹後		原田	0
3	松田		坂倉	5
7	北川		道上	3
0	川崎		松尾	0
0	塙		野田	5
0	北川		甲斐	2
1	金		進藤	0
0	森		香井	0
		（審・武智・松原）		
27	(5)	PT	(4)	21

10月30日（日）　大分・大分県立総合体育館

ジャスコ 24（6－4、18－12）**16 ソニー国分**

〔戦評〕ソニー国分・宮原の得点で前半をすべり出したが、ジャスコ、ソニーともにGKを中心によく守り、6－4とジャスコのリードで前半を終了。後半ジャスコは、川井、王、渡辺らのシュートで点差を広げたが、ソニーも藤元のペナルティースローで追い上げた。ジャスコは、25分過ぎ近藤の4連続得点で突き放して勝利をものにした。

得	〔ジャ〕		〔ソニー〕	得
0	小深田	GK	阿多石	0
0	吉田			
0	服部	FP	斜木	1
1	佐々木		野角	0
1	石田		宮原	3
6	近藤		白石	0
0	池田		東郷	1
5	渡辺		山口	2
4	川井		藤元	7
0	武田		楠本	0
1	池田		永尾	2
6	王			
		（審・中園・大和）		
24	(2)	PT	(5)	16

10月30日（日）　神奈川・秋葉台文化体育館

JUKI 27（10－11、17－6）**17 ムネカタ**

〔戦評〕前半はややムネカタペース。ムネカタの1点リードで前半を終了。
　後半に入ってムネカタにミスが目立ち始め、JUKIがそのミスから速攻を連発、一気に突き放して快勝した。

得	〔JU〕		〔ムネ〕	得
0	大角	GK	遠藤	0
			我妻	0
1	石塚	FP	伊藤	1
0	石井		川名	7
6	佐藤		太田	3
1	上田		桜井	5
6	嶋田		高橋	1
0	内山		上遠野	0
2	伊原		千葉	0
6	古谷			
2	大林			
3	熊谷			
		（審・松本・石川）		
27	(1)	PT	(2)	17

11月3日（木）　岩手・紫波町立体育館

北国銀行 30（12－5、18－10）**15 ムネカタ**

〔戦評〕北国銀行がセットオフェンスは金明恵のパスから、松田の回り込みジャンプシュート、丹後のステップシュートと多彩な攻撃を見せて前半で大きく優位に立つ。ムネカタも桜井のポストがよく光り、部分部分ではいいプレーがあったが、点差を縮めるまでは至らなかった。

得	〔北国〕		〔ムネ〕	得
0	木戸	GK	遠藤	0
0	岩井		我妻	0
0	上田	FP	伊藤	0
1	林		川名	3
5	丹後		太田	3
9	松田		桜井	7
7	北川		高橋	2
1	川崎		上遠野	0
0	塙		千葉	0
1	北川			
6	金			
0	森			
		（審・小笠・高橋）		
30	(4)	PT	(2)	15

11月5日（土）　山口・徳山市体育館

ジャスコ 23（11－7、12－8）**15 JUKI**

〔戦評〕開始早々よりジャスコは速攻で有利な試合展開となったが、中盤よりJUKIも確実なシュートで着々と得点を重ね一時同点にまでこぎつけた。
　以後1～2点差で互角の試合運びとなったが、前半の終盤よりジャスコもシュートミスが少なくなり、優勢のうちに試合を進め、じりじりと点差を広げて試合を終了した。

得	〔ジャ〕		〔JU〕	得
0	小深田	GK	大角	0
0	小林		石塚	0
0	服部	FP	石井	0
2	佐々木		佐藤	6
1	石田		上田	2
3	近藤		嶋田	3
6	渡辺		内山	0
2	川井		伊原	1
0	武田		古谷	1
1	池田		大林	1
2	稲田		熊谷	1
6	王			
		（審・増田・中所）		
23	(2)	PT	(1)	15

11月6日（日）　鳥取・境港市民体育館

ブラザー工業 28（14－7、14－8）**15 ソニー国分**

〔戦評〕前半、ブラザーは道上の動きが良く、荒木のアシストもあって立ち上がり4－1とペースをつかんだ。粘るソニーも中盤より宮原のポストで応戦するが、14－7で折り返す。後半に入り両者共リズムがつかめず、一進一退の展開となったが、ディフェンスが荒いソニーに退場者が出て、4連続得点のブラザーペースとなる。終盤でまた点の取り合いとなるが、得点差は縮まらず、28－15でブラザーが勝利を収めた。

得	〔ブ工〕		〔ソニー〕	得
0	大藪	GK	阿多石	0
0	岡本			
9	荒木	FP	斜木	0
1	末永		野角	0
0	原田		宮原	3
7	坂倉		白石	0
4	道上		東郷	3
0	松尾		山口	2
0	大久保		藤元	3
7	野田		楠本	0
0	進藤		永尾	4
0	香井			
		（審・進木・早田）		
28	(5)	PT	(2)	15

11月19日（土）　東京・JUKI体育館

ブラザー工業 25（12－11、13－12）**23 JUKI**

〔戦評〕前半、ブラザーはJUKIの速い動きに自分たちのペースを乱し、ノーマークシュートのミスを多発、一時は3点のリードを許したが、荒木のペナルティースローで同点とし、逆に1点をリードして前半を終了。後半も追いつ追われつのシーソーゲームで、双方共スピーディなゲーム展開を見せたが、ミスが多く得点に結びつけることができず、ブラザーが接戦を逃げ切った。

得	〔ブ工〕		〔JU〕	得
0	大藪	GK	大角	0
0	岡本			
5	荒木	FP	石塚	0
4	原田		石井	2
3	坂倉		佐藤	6
4	道上		上田	0
1	松尾		嶋田	4
2	大久保		内山	0
6	野田		伊原	2
0	甲斐		古谷	5
0	進藤		大林	3
0	香井		熊谷	1
		（審・市瀬・上小沢）		
25	(3)	PT	(1)	23

ジャスコ 31（14－8、17－5）**13 ムネカタ**

〔戦評〕終始押し気味のジャスコは、前半開始早々6連続得点をあげる強さを見せた。その後ムネカタも川名のサイドシュートなどからペースをつかんだが、最初の6

得	〔ジャ〕		〔ムネ〕	得
0	小深田	GK	遠藤	0
0	吉田		我妻	0
3	服部	FP	伊藤	2
3	佐々木		川名	3
2	石田		太田	2
0	近藤		桜井	3
2	池田		高橋	0
8	渡辺		上遠野	2
1	常石		千葉	0
4	川井			
1	武田			
7	池田			
		（審・羽田・門井）		
31	(4)	PT	(2)	13

ー0が大きく響き、14ー8と大差をつけられ折り返した。ムネカタは荒っぽい攻撃と単調なミスでなかなか得点できず、ジャスコの圧勝に終った。

北国銀行 29（16ー10、13ー9）19 ソニー国分

〔戦評〕北国銀行は立ち上がりから速い攻撃で松田、北川らの速攻とPTなどで8分過ぎには5ー0とし、一方的なゲーム展開となるかに見えたが、ソニーも11分過ぎから山口、藤元らで反撃、17分には7ー8と1点差に詰め寄る。しかし、20分過ぎにソニーは2人の退場者を出し、また3本のノーマークシュートをミスし、北国が16ー10とリードして前半を終了。後半に入っても、スピードのある攻撃展開で北国はソニーのディフェンスを崩して快勝した。

	〔ソニー〕	得	〔北国〕	得
GK	阿多石	0	木戸	0
			岩井	0
FP	斜木	0	上田	1
	宮原	5	林	6
	白石	0	丹後	3
	東郷	1	松田	6
	山口	2	北川	9
	藤光	7	川崎	1
	楠本	3	北川	0
	永尾	1	金	2
			鈴木	0
			森	1
PT	(3)	19	(4)	29

（審・後藤、島田）

11月20日（日）東京・JUKI体育館

JUKI 20（10ー9、10ー11）20 ソニー国分

〔戦評〕前半の立ち上がりソニーが優位に展開するが、徐々にJUKIが追い上げてシーソーゲームを展開する。

後半、両者共お互いのディフェンスに攻めあぐみながら、JUKI・古谷、ソニー・藤元を中心とした好ゲームを展開。結局20ー20で引き分けた。

	〔ソニー〕	得	〔JU〕	得
GK	阿多石	0	大角	0
FP	斜木	0	石塚	0
	宮原	7	石井	0
	白石	0	佐藤	8
	東郷	5	上田	1
	山口	3	嶋田	3
	藤元	5	内山	0
	楠木	0	伊原	1
	永尾	0	古谷	5
			大林	2
			熊谷	0
PT	(2)	20	(3)	20

（審・水越、上小沢）

ジャスコ 27（14ー8、13ー12）20 北国銀行

〔戦評〕共に3戦全勝同士の対決で大変興味を集めたが、前半の立ち上がりは共にシュートが決めらずロースコアーの展開。しかし、中盤を過ぎてジリジリとジャスコがリードを奪い、14ー8で前半を折り返す。後半の立ち上がり、北国も北川が3本連続でPTを決めるなどして追い上げるが、結局一進一退の展開となり、前半のリードを保ったジャスコが逃げ切り、全勝を守った。

	〔北国〕	得	〔ジャ〕	得
GK	木戸	0	小深田	0
	岩井	0	吉田	0
FP	上田	0	服部	3
	林	4	佐々木	1
	丹後	3	石田	1
	松田	3	近藤	1
	北川	7	池田	0
	川崎	0	渡辺	10
	北川	0	川井	3
	金	3	武田	2
	鈴木	0	池田	2
	森	0	王	4
PT	(5)	20	(4)	27

（審・浜田、小笠原）

ブラザー工業 32（16ー7、16ー7）14 ムネカタ

〔戦評〕前半立ち上がりムネカタが2点を連取するが、ブラザーもすぐに追い上げ3分過ぎには2ー2と同点に追いつき、以後終始先手を取ってブラザーがリード。ムネカタは10分から20分までの10分間無得点に終り、ブラザーが16ー7と大きくリードして前半を終了。後半に入ってブラザーペースは変わらず、着々と点差を広げて快勝した。

	〔ムネ〕	得	〔ブ工〕	得
GK	遠藤	0	大薮	0
	我妻	0	岡本	0
FP	伊藤	3	荒木	10
	川名	2	進藤	1
	太田	3	原田	3
	桜井	5	坂倉	2
	高橋	0	道上	3
	上遠野	1	松尾	1
	千葉	0	香井	2
			大久保	1
			野田	7
			甲斐	2
PT	(2)	14	(5)	32

（審・川口、兼田）

11月26日（土）三重・四日市市体育館

ジャスコ 25（15ー8、10ー13）21 ブラザー工業

〔戦評〕今一つスピードに乗れないブラザーに対し攻守共にスピードのあるジャスコは王を中心に着実に加点し、15ー8と7点差をつけて前半を終了。

後半、ブラザーもGKに岡本の堅守、サイドシュートを中心に必死に食い下がりを見せたが、前半の点差が大きく影響し、逆転することができなかった。

	〔ブ工〕	得	〔ジャ〕	得
GK	大薮	0	小深田	0
	岡本	0	吉田	0
FP	荒木	5	服部	3
	末永	1	佐々木	3
	原田	3	石田	0
	道上	4	近藤	6
	松尾	2	池田	0
	大久保	0	渡辺	4
	野田	5	川井	1
	甲斐	1	武田	1
	進藤	0	池田	4
	香井	0	王	3
PT	(3)	21	(4)	25

（審・杉本、川合）

11月26日（土）石川・金沢市総合体育館

北国銀行 30（11ー15、19ー12）27 JUKI

〔戦評〕前半開始3分、落雷による停電による10分あまりの中断があったものの、両者共鋭い動きで一進一退の攻防だったが、ディフェンスに精彩を欠く北国をJUKIがよく攻め、点差を広げていった。

しかし、後半に入って北国も粘り強く追い上げ、激しい点の取り合いとなったが、GK木戸の再三にわたる好守に元気を得た北国が逆転勝ちを収めた。

	〔JU〕	得	〔北国〕	得
GK	大角	0	木戸	0
			岩井	0
FP	石塚	0	上田	0
	石井	0	林	3
	佐藤	5	丹後	10
	上田	2	松田	2
	嶋田	2	北川	8
	内山	0	川崎	0
	伊原	3	北川	4
	古谷	8	金	3
	大林	2	森	0
	熊谷	5	宮本	0
PT	(0)	27	(4)	30

（審・志々場、庄司）

11月27日（日）富山・高岡市民体育館

ソニー国分 28（15ー7、13ー5）12 ムネカタ

〔戦評〕攻守の要であるソニー国分・藤元の好アシスト及び自らのシュート（PTを含め14得点）による活躍が光り、ソニー国分が前半より優位に展開、大差をつけて快勝した。

	〔ムネ〕	得	〔ソニー〕	得
GK	遠藤	0	阿多石	0
	武妻	0		
FP	伊藤	1	斜木	0
	川名	0	宮原	7
	太田	3	白石	0
	桜井	3	東郷	2
	高橋	2	山口	1
	上遠野	3	藤元	14
	千葉	0	楠本	3
			永尾	1
PT	(2)	12	(2)	28

（審・光安、小坪）

〔順位〕①ジャスコ（5勝）②北国銀行（4勝1敗）③ブラザー工業（3勝2敗）④JUKI（1勝1分3敗）⑤ソニー国分（1勝1分3敗）⑥ムネカタ（5敗）

各地学生秋季リーグ戦

北海道学生

▼男子2部

北星大 19—14 北海道工大
小樽商大 30—27 北教大旭川
小樽商大 47—15 道都大
北教大旭川 37—21 北海道工大
小樽商大 25—10 北星大
北海道工大 44—15 道都大
北星大 28—27 北教大旭川
道都大 33—15 北星大
小樽商大 25—19 北海道工大
北教大旭川 37—21 道都大

〔順位〕①小樽商科大②北星学園大③北海道教育大(旭川分校)④北海道工業大⑤道都大

▼男子3部

室蘭工大 33—18 札幌学院大
北見工大 48—28 北海学園北見大
北見工大 27—16 札幌学院大
室蘭工大 44—10 北海学園北見大
札幌学院大 26—21 北海学園北見大
室蘭工大 31—16 北見工大

〔順位〕①室蘭工業大②北見工業大③札幌学院大④北海学園北見大

東北学生

▼男子1部

東北学院大 19—19 東北福祉大
岩手大 21—18 東北学院大
東北学院大 24—20 福島大
東北学院大 37—17 山形大
東北学院大 31—19 仙台大
岩手大 24—20 東北福祉大
東北福祉大 26—22 福島大
東北福祉大 29—24 山形大
東北福祉大 34—27 仙台大
福島大 23—22 岩手大
山形大 25—23 岩手大
山形大 19—16 福島大
福島大 27—24 仙台大
仙台大 25—20 山形大
岩手大 31—17 仙台大

〔順位〕①東北学院大②東北福祉大③岩手大④福島大

▼男子2部

東北大 27—18 宮教大
東北大 28—15 弘前大
東北大 41—25 秋田大
東北大 40—12 日大工学部
東北大 12—0 学院大工学部
宮教大 38—16 弘前大
宮教大 31—22 秋田大
宮教大 43—21 日大工学部
宮教大 50—22 学院大工学部
弘前大 28—27 秋田大
弘前大 29—21 日大工学部
弘前大 40—26 学院大工学部
秋田大 44—18 日大工学部
秋田大 33—27 学院大工学部
日大工学部 26—20 学院大工学部

〔順位〕①東北大②宮城教育大③弘前大④秋田大⑤日大工学部⑥学院大工学部

▼女子

東北福祉大 26—17 福島大
東北福祉大 29—15 山形大
東北福祉大 27—12 岩手大
東北福祉大 32—10 宮教大
山形大 20—18 福島大
福島大 31—24 岩手大
福島大 40—6 宮教大
岩手大 19—16 山形大
山形大 33—10 宮教大
岩手大 19—9 宮教大

〔順位〕①東北福祉大②福島大③山形大④岩手大⑤宮城教育大

北信越学生

▼男子1部

信州大 18（12—6、6—4）10 金沢工大
新潟大 21（12—7、9—8）15 福井大
金沢大 26（16—10、10—7）17 信州大
金沢工大 22（10—9、12—6）15 新潟大
福井大 15（7—5、8—10）15 信州大
新潟大 19（12—10、7—8）18 金沢大
金沢工大 18（10—10、8—8）18 福井大
金沢大 22（12—10、10—3）13 金沢工大
新潟大 21（10—8、11—7）15 信州大
金沢大 26（13—8、13—7）15 福井大

〔順位〕①金沢大(3勝1敗)②新潟大(3勝1敗)③信州大(1勝1分2敗)④金沢工大(2分2敗)⑤福井大(1勝1分2敗)

※①〜②、③〜④は得失点差による。

▼女子

金沢大 11（2—2、9—2）4 新潟大
富山大 22（8—3、14—12）15 信州大
金沢大 10（6—2、4—7）9 信州大
富山大 16（10—7、6—3）10 新潟大
信州大 12（6—6、6—3）9 新潟大
富山大 20（10—9、10—5）14 金沢大

〔順位〕①富山大(3勝)②金沢大(2勝1敗)③信州大(1勝2敗)④新潟大(3敗)⑤北陸大棄

権

▼男子2部

金沢美大 21－18 長野大
富山医薬大 51－39 富山大
北陸大 23－17 長野大
北陸大 21－14 金沢美大
長野大 17－14 富山医薬大
富山大 25－16 北陸大
金沢美大 21－14 富山医薬大
富山大 38－5 長野大
北陸大 27－17 富山医薬大
富山大 35－15 金沢美大

〔順位〕①富山大②北陸大③金沢美大④長野大⑤富山医薬大

東海学生

▼男子2部

愛知大 18－16 滋賀大
静岡大 28－15 南山大
日福大 31－25 名学大
南山大 17－14 滋賀大
名学大 22－21 滋賀大
静岡大 29－26 名学大
愛知大 21－15 南山大
日福大 30－27 滋賀大
日福大 23－17 南山大
南山大 24－16 名学大
愛知大 27－19 日福大
静岡大 30－20 滋賀大
愛知大 22－20 静岡大
静岡大 32－21 日福大

〔順位〕①愛知大②静岡大③日本福祉大④南山大⑤名古屋学院大⑥滋賀大

▼男子3部

豊田工専 29－26 岐阜大
名経大 30－25 三重大
名工大 39－26 常葉学園大
豊田工専 36－36 三重大
名工大 33－20 三重大
名経大 37－20 豊田工専
岐阜大 41－24 常葉学園大
岐阜大 28－26 名経大
三重大 29－29 常葉学園大
三重大 27－26 岐阜大
豊田工専 42－25 常葉学園大
名工大 23－23 名経大
名工大 29－22 岐阜大
名経大 38－23 常葉学園大

〔順位〕①名古屋工大②名古屋経大③岐阜大④豊田工業専門学校⑤三重大⑥常葉学園大

▼男子4部

朝日大 32－24 豊橋技科大
朝日大 33－25 豊田工大
皇学館大 12－0 豊橋技科大
豊田工大 12－0 豊橋技科大
皇学館大 26－18 愛知医大
朝日大 28－17 皇学館大
豊田工大 30－27 愛知医大
豊橋技科大 12－0 愛知医大
皇学館大 32－32 豊田工大
朝日大 12－0 愛知医大

〔順位〕①朝日大②豊田工大③皇学館大④愛知医大⑤豊橋技術科学大

▼女子2部

三重大 17－15 静岡大
三重大 23－11 岐阜大
南山大 30－10 静岡大
南山大 36－17 岐阜大
静岡大 26－15 愛知学大
南山大 20－8 三重大
岐阜大 39－14 愛知学大
静岡大 17－15 岐阜大
南山大 35－8 愛知学大
静岡大 29－16 皇学館大
南山大 25－14 皇学館大
愛知学大 27－25 皇学館大
皇学館大 20－18 三重大
岐阜大 33－29 皇学館大
三重大 29－14 愛知学大

〔順位〕①南山大②三重大③静岡大④岐阜大⑤皇学館大⑥愛知学院大

関西学生

▼男子2部

関大 25－21 近大
関大 29－18 阪大
関大 28－12 神戸大
関大 27－22 甲南大
関大 27－14 関外大
関大 29－13 大教大
近大 36－23 神戸大
近大 33－20 甲南大
近大 25－12 関外大
近大 34－22 阪大
近大 38－23 大教大
大教大 22－18 阪大
大教大 30－22 神戸大
大教大 33－26 甲南大
大教大 25－23 関外大
阪大 38－21 神戸大
阪大 36－28 関外大
関外大 25－19 神戸大
関外大 33－22 甲南大
甲南大 28－25 阪大
甲南大 25－24 神戸大

〔順位〕①関西大②近畿大③大阪教育大④大阪大⑤関西外国語大⑥甲南大⑦神戸大

▼男子3部

京大 18－7 大府大
京大 17－14 立命館大
京大 21－18 和歌山大
京大 19－17 大市大
京大 25－18 龍谷大
京大 25－23 仏教大
立命館大 26－13 大府大
立命館大 25－9 大市大
立命館大 28－18 龍谷大
立命館大 31－22 仏教大
和歌山大 25－14 大府大
和歌山大 23－20 立命館大
和歌山大 27－10 大市大
和歌山大 31－14 龍谷大
仏教大 39－17 大府大
仏教大 23－19 和歌山大
仏教大 27－20 大市大
仏教大 27－25 龍谷大
大市大 20－19 大府大
大市大 20－13 龍谷大
龍谷大 29－26 大府大

〔順位〕①京都大②立命館大③和歌山大④仏教大⑤大阪市立大⑥龍谷大⑦大阪府立大

男子4部

大院大 30－18 京工大
大院大 31－28 関学大
大学大 12－0 大工大
大院大 29－16 滋賀大

大院大 31―20 大産大
関学大 31―28 京工大
関学大 52―4 大工大
関学大 37―22 奈教大
関学大 31―20 大産大
関学大 21―21 滋賀大
京工大 12―0 大工大
京工大 28―25 奈教大
京工大 31―15 滋賀大
京工大 29―20 大産大
大産大 12―0 大工大
大産大 35―34 奈教大
大産大 31―23 滋賀大
奈教大 40―10 大工大
奈教大 27―26 滋賀大
滋賀大 41―22 大工大
〔順位〕①大阪学院大②関西学院大③京都工芸繊維大④大阪産業大⑤奈良教育大⑥滋賀大⑦大阪工業大

▼男子5部

神院大 28―14 兵教大
神院大 25―14 追手門大
神院大 25―17 神商大
神院大 29―20 奈良大
神院大 26―10 京府大
神院大 12―0 八代大
追手門大 24―19 兵教大
追手門大 28―25 神商大
追手門大 17―13 奈良大
追手門大 18―10 京府大
追手門大 12―0 八代大
神商大 30―26 兵教大
神商大 30―24 京府大
神商大 12―0 八代大
兵教大 20―16 奈良大
兵教大 22―20 京府大
京府大 20―8 奈良大
京府大 12―0 八代大
奈良大 12―0 八代大
〔順位〕①神戸学院大②追手門学院大③神戸商船大④兵庫教育大⑤京都府立大⑥奈良大⑦八代学院大

▼男子6部

姫独大 26―21 大歯大
姫独大 28―19 姫工大
姫独大 16―15 大薬大
姫独大 27―20 京外大
姫独大 29―24 大外大
大歯大 29―18 姫工大
大歯大 33―25 大薬大
大歯大 23―11 京外大
大歯大 35―20 大外大
姫工大 21―15 大歯大
姫工大 30―15 大外大
姫工大 19―19 京外大
京外大 19―15 大薬大
京外大 16―14 大外大
大薬大 28―11 大外大
〔順位〕①姫路独協大②大阪歯科大③姫路工業大④京都外国語大⑤大阪薬科大⑥大阪外国語大

▼女子2部

神戸大 12―4 関学大
神戸大 24―10 和歌山大
神戸大 21―13 仏教大
神戸大 25―8 大薬大
神戸大 20―8 京外大
神戸大 8―8 関大
関大 15―9 関学大
関大 23―12 仏教大
関大 18―6 大薬大
関大 23―18 京女大
和歌山大 17―0 関大
和歌山大 18―15 仏教大
和歌山大 26―11 大薬大
和歌山大 17―15 京女大
関学大 17―16 和歌山大
関学大 15―8 仏教大
関学大 28―11 大薬大
大薬大 14―13 仏教大
大薬大 17―16 京女大
仏教大 25―22 京女大
京女大 14―8 関学大
〔順位〕①神戸大②関西大③和歌山大④関西学院大⑤大阪薬科大⑥仏教大⑦京都女子大

▼女子3部

。Aグループ
滋賀大 11―9 立命館大
滋賀大 26―3 追手門大
立命館大 19―3 追手門大
。Bグループ
奈良女大 20―7 京府大
奈良女大 20―3 大外大
京府大 13―9 大外大
。Cグループ
甲南大 14―11 京府大
甲南大 12―0 園田女大
奈教大 12―0 園田女大
。1〜3位決定リーグ
滋賀大 12―12 奈良女大
滋賀大 19―8 甲南大
奈良女大 13―10 甲南大
。4〜6位決定リーグ
立命館大 18―9 京府大
奈教大 16―12 立命館大
奈教大 18―10 京府大
。7〜9位決定リーグ
追手門大 13―12 大外大
追手門大 12―0 園田女大
大外大 12―0 園田女大
〔順位〕①滋賀大②奈良女子大③甲南大④奈良教育大⑤立命館大⑥京都府立大⑦追手門学院大⑧大阪外国語大⑨園田学園女子大

山口県学生

山口大本部 25―16 徳山大
山口大本部 33―19 徳山高専
山口大本部 39―9 宇部高専
山口大本部 32―11 山口医学部
徳山大 35―22 徳山高専
徳山大 30―18 宇部高専
徳山大 38―14 山口大医学部
徳山高専 34―18 宇部高専
徳山高専 25―25 山口大医学部
宇部高専 20―19 山口大医学部
〔順位〕①山口大本部②徳山大③徳山高専④宇部高専⑤山口大医学部

各地の記録から・・・

東北

第25回仙台市民総体

（10月1～2日／仙台市体育館）

〈高校男子〉

▼1回戦

向山 47－4 東北B
育英・西 30－19 仙台二
仙台西 27－26 仙台一A
仙台三 19－8 泉松陵
仙台南 28－9 仙台一B
育英 32－3 電子
仙台商 36－19 宮城工
東北A 27－26 広瀬

▼2回戦

育英・西 30－14 向山
仙台三 20－18 仙台西
育英 32－13 仙台南
仙台商 48－22 東北A

▼準決勝

育英・西 29－12 仙台商
育英 26－12 仙台三

▼決勝

育英 26－24 育英・西

〈高校女子〉

▼1回戦

仙台女商 16－12 仙台西
宮城三女A 35－7 広瀬

▼準決勝

朴沢B 18－5 宮城三女B
朴沢A 23－11 宮城一女
聖和B 37－4 仙台女商
聖和A 36－13 宮城三女A

▼準決勝

聖和A 39－17 朴沢A
聖和B 16－7 朴沢B

▼決勝

聖和A 20－18 聖和B

関東

第12回関東実業団選手権

（9月10・11日／草加市スポーツ健康都市記念体育館）

〈男子1部〉

▼1回戦

三陽商会 40－20 セントラル

▼準決勝

中村荷役 35－32 三景
三陽商会 34－21 大崎電気

▼3位決定戦

大崎電気 34－25 三景

▼決勝

三陽商会 37（16－11、21－9）20 中村荷役

〈男子2部〉

▼1回戦

出光千葉 29－16 関東自動車
日本原研 24－18 日産石化
JUKI 43－23 三井石化

▼2回戦

日本発条 28－9 出光千葉
コスモ石油 24－19 富士電機
三景麹町 44－16 日本原研
JUKI 30－21 自衛隊下総

▼準決勝

日本発条 37－21 コスモ石油
三景麹町 30－24 JUKI

▼決勝

三景麹町 28（19－10、9－13）23 日本発条

▼第6代表決定戦

富士電機 30－28 関東自動車
三井石化 32－18 日産石化
三井石化 31－15 富士電機

〈女子〉

▼1回戦

日立栃木 20－18 ビクター

▼準決勝

大崎電気 34－26 JUKI
シャトレーゼ 29－16 日立栃木

▼3位決定戦

日立栃木 29－24 JUKI

▼決勝

大崎電気 34（18－18、16－11）29 シャトレーゼ

茨城県高校ジュニア大会

（9月20、21日／麻生高）

〈男子〉

▼1回戦

竜ケ崎一 16－4 勝田
笠間 16－7 下館一
取手松陽 31－8 勝田工
岩井 26－7 鉾田一
麻生 22－5 日立一
竹園 17－13 神栖
古河三 16－13 牛久
土浦日大 27－10 水戸一
土浦湖北 16－14 茨城
緑岡 19－6 波崎
伊奈 8－7 土浦三

▼2回戦

水海道一 15－12 竜ケ崎一
笠間 11－10 取手松陽
岩井 31－5 太田一
麻生 23－18 土浦工
竹園 20－7 鹿島灘
土浦日大 31－8 古河三
土浦湖北 13－11 緑岡
玉造工 15－11 伊奈

▼3回戦

笠間 19－11 水海道一
岩井 13－8 麻生
土浦日大 28－10 竹園
土浦湖北 15－12 玉造工

▼準決勝

岩井 25－11 笠間
土浦日大 24－12 土浦湖北

▼決勝

土浦日大 19（7－7、7－7、1－1、4－2）17 岩井

〈女子〉

▼1回戦

水海道二 24－4 土浦湖北
潮来 27－2 土浦三
日立二 14－11 愛国学園
高萩 11－10 八郷
岩井西 12－0 竜ケ崎一
並木 18－11 那珂湊二
竜ケ崎二 26－13 鉾田二
麻生 46－5 笠間

▼2回戦

水海道二 18－8 潮来
日立二 17－7 高萩
岩井西 22－6 並木
竜ケ崎二 12－8 麻生

▼準決勝

水海道二 14－8 日立二
麻生 23－13 岩井西

▼決勝

麻生 16（10－7、6－4）11 水海道二

第41回千葉県民体育大会

（9月24、25日）

〈男子〉

▼1回戦

柏市 43－12 木更津市
千葉市 30－20 流山市
習志野市 18－14 東葛飾郡
八千代市 32－23 市原市
市川市 38－22 君津市
印旛郡 26－16 船橋市
佐原市 30－14 君津郡
勝浦市 29－20 松戸市

▼2回戦

柏市 40－22 千葉市
八千代市 22－18 習志野市
市川市 47－22 印旛郡
勝浦市 21－18 佐原市

▼準決勝

柏市 30－29 八千代市
市川市 30－19 勝浦市

▼決勝

市川市 27（13—13、14—10）23 柏市

〈女子〉

▼1回戦

佐原市 12—0 柏市

習志野市 26—4 松戸市

千葉市 30—9 流山市

▼準決勝

市川市 29—6 佐原市

千葉市 16—13 習志野市

▼決勝

市川市 18（10—3、8—6）9 千葉市

東海

第39回三重県総合選手権

（9月4、18、25日／津東高）

〈男子〉

▼1回戦

鳥羽商船OB 25—23 鈴鹿高専B

桑名北高B 28—16 上野工A

桑名工B 26—20 津東高B

亀山クA 23—18 津工A

全三重教員 50—16 海星高A

桑名西高 31—9 桜ク

四日市高B 33—11 四日市南高OB

鈴鹿高専A 20—14 津工B

海星高B 21—13 四日市西高A

名張西高 17—7 津西高

むつみケ丘ク 43—20 上野工B

八陵星 19—14 桑名工A

亀山高 26—14 桑名高B

高田高A 22—12 津高B

三重教員 43—7 川越高

四日市南高 22—17 桑名西ク

三重大 22—17 尾鷲高

四日市高A 30—18 鳥羽商船

西笹川ク 31—23 尾鷲ク

津東高A 32—12 四日市中央工

半田ク 38—16 亀山クB

四日市中央ク 26—12 高田高B

津高A 24—9 桑名北高A

四日市四郷高 21—12 四日市西高B

▼2回戦

鳥羽商船OB 棄権 本田技研鈴鹿

三重教員 29—19 鵜ノ森ク

桑名高A 28—20 亀山クA

四日市工高 39—14 四日市高A

本田技研爽風会 37—12 四日市高B

半田ク 25—18 三菱油化

四日市工高A 37—12 名張西高

本田ク 32—25 四日市四郷

亀山高A 棄権 桑名北高B

桑名工B 17—14 高田高A

全三重教員 35—24 四日市南高

桑名西高 棄権 三重大

西笹川ク 棄権 鈴鹿高専A

津東高A 26—24 海星高B

四日市中央ク 30—17 むつみケ丘ク

津高A 31—25 八陵星

▼3回戦

亀山高 23—14 鳥羽商船OB

三重教員 33—6 桑名工B

全三重教員 棄権 桑名高A

四日市工高B 22—19 桑名西高

本田技研爽風会 24—13 西笹川ク

津東高A 29—10 半田ク

四日市工高A 36—10 四日市中央ク

本田ク 41—19 津高A

▼4回戦

三重教員 25—16 亀山高

全三重教員 37—29 四日市工高B

本田技研爽風会 42—8 津東高A

本田ク 23—18 四日市工高A

▼準決勝

三重教員 27—24 全三重教員

本田技研爽風会 33—18 本田ク

▼決勝

本田技研爽風会 39（18—9、21—11）20 三重教員

※本田技研爽風会は5年ぶり2回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦

西笹川ク 19—17 上野高OG

三重大 17—9 四日市商OGA

上野高 18—6 鳥羽商船

四日市南高OG 17—14 桜ク

桑名西高 36—11 津西高

四日市高 31—10 津高

名張西高 31—3 亀山ク

津東高A 32—7 桑名高

川越高 10—9 尾鷲高

四日市南高 18—10 四日市商OGB

▼2回戦

暁高 39—10 西笹川ク

四日市南高OG 14—10 四日市商高

むつみケ丘ク 24—12 桑名西高

四日市西高 13—7 四日市南高

亀山高 棄権 三重大

津東高B 12—11 上野高

名張西高 19—16 四日市高

津東高A 20—5 川越高

▼3回戦

暁高 36—13 亀山高

津東高B 棄権 四日市南高OG

名張西高 25—12 むつみケ丘ク

津東高A 17—9 四日市西高

▼準決勝

暁高 38—2 津東高B

名張西高 19—12 津東高A

▼決勝

暁高 33（18—10、15—6）16 名張西高

※暁高は2年ぶり7回目の優勝。

四国

山口県高校選手権

（9月25、26日／下関中央工体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

徳山 28—7 野田学園

徳山商 17—8 下関工

山口 35—10 華陵

高水 34—16 田部

防府商 25—7 南陽工

西京 25—13 小野田工

宇部工 11—7 下関一

▼2回戦

岩陽 26—6 徳山

徳山商 18—16 防府西

岩国工 24—18 下松

岩国 26—5 山口

下関中央工 25—13 高水

下関西 15—14 防府商

西京 29—23 徳山工

下松工 35—8 宇部工

▼3回戦

岩陽 30—12 徳山商

岩国 17—12 岩国工

下関中央工 43—6 下関西

下松工 30—15 西京

▼準決勝

岩陽 18—6 岩国

下松工 26—18 下関中央工

▼決勝

下松工 22（12—7、10—6）13 岩陽

〈女子〉

▼1回戦

防府商 43—8 坂上

▼2回戦

岩国商 30—3 防府商

華陵 28—13 岩国西

長府 14—3 防府西

熊毛北 33—5 田部

徳山 19—6 西京

徳山商 25—6 響

岩陽 30—5 山口中央

高水 49—3 徳山工

▼3回戦

岩国商 17—14 華陵

熊毛北 29—13 長府

徳山商 23—18 山口

岩陽 22—22（5 PTC 4）高水

▼準決勝

岩国商 17—16 熊毛

徳山商 27—11 岩陽

▼決勝

徳山商 16（6—8、10—6）14 岩国商

未来をみつめる健康テクノ
asics
走る、跳ぶ、投げる。
制空権を得るためのスカイハンド®。
より高い跳躍と より長い滞空時間。
よりコンパクトなテイクバックとスピーディなスローイング。
ここに至るには 地道な長い練習の日々と、
勝負に臨んでの集中力と爆発力が必要である。
この日のために努力を重ねてきた選手たちに——。
バイオメカニクスで育てられたウェアとシューズ。
アシックスよりおくります。
SKYHAND®
ASICS Handball Wear
asics® TIGER®
ASICS Handball Shoes
株式会社アシックス
●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)624-1814(専用)・(03)624-2221(大代表) ■®は㈱アシックスの登録商標です。

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二八二号
昭和四十年六月　日　第三種郵便物認可
平成一年一月二十五日　印刷　平成一年二月一日　発行
東京都渋谷　一―一―一
電話　代表　二三六一
振替　東京　六―五八三四八番
編集兼発行人　安藤純光
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）